

官報

號外 昭和十四年三月十四日

第七十四回帝國議會貴族院議事速記録第二十二號

昭和十四年三月十三日(月曜日)午前十時六分開議

議事日程 第二十二號

昭和十四年三月十三日

午前十時開議

第一 臨時軍事費豫算追加案(臨時第一號)

第二 商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第三 臨時資金調整法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第四 產金法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第五 昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第六 作業會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第七 兌換銀行券整理法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第八 農業再保險特別會計法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第九 海軍工廠資金會計法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 森林法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 林業種苗法案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

國境取締法案特別委員會

委員長 山川 端夫君
副委員長 男爵井田 磐楠君
同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案可決報告書
作業會計法中改正法律案可決報告書
兌換銀行券整理法中改正法律案可決報告書

農業再保險特別會計法案可決報告書
海軍工廠資金會計法中改正法律案可決報告書
請願委員會特別報告第六號
同日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ
商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
厚生省所管事務政府委員
保險院書記官 川村 秀文君
一昨十一日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
保險業法改正法律案特別委員會

委員長 伯爵樺山 愛輔君
副委員長 男爵矢吹 省三君
青年學校教育費國庫補助法案特別委員會
委員長 侯爵德川 義親君
副委員長 子爵清岡 長言君
臺灣米穀移出管理特別會計法案特別委員會
委員長 侯爵大隈 信常君
副委員長 伯爵黑木 三次君
同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
臨時軍事費豫算追加案(臨時第一號)可決報告書

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
內務省所管事務政府委員
內務書記官 生悅住求馬君

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、臨時軍事費豫算追加案、臨時第一號、會議、委員長報告、委員長渡邊子爵
〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

一臨時軍事費豫算追加案(臨時第一號)
右衆議院ヨリ受領シタル案ヲ審查シ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
昭和十四年三月十一日
委員長 子爵渡邊 千冬
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

○議長(伯爵松平賴壽君) 報告致サセマス
去ル十日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
鑛業法中改正法律案特別委員會
委員長 子爵秋田 重季君
副委員長 男爵伊藤 一郎君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ
臨時軍事費豫算追加案(臨時第一號)可決報告書

同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ
滿洲國ニ於ケル領事官ノ裁判ノ廢止ニ關スル法律案
借地借家臨時處理法中改正法律案
公證人法中改正法律案
同日內閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十四回帝國議會政府委員仰付ラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

官報號外

昭和十四年三月十四日

貴族院議事速記録第二十二號

議長ノ報告

臨時軍事費豫算追加案(臨時第一號) 會議

會ニ於ケル審査ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、臨時軍事費豫算追加案ハ支那事變ノ推移ニ伴フ必要ナル經費ヲ追加シタモノデアリマシテ、其ノ金額ハ歲入歳出共ニ四十六億五千萬圓デアリマス、歳出豫算ノ内譯ハ陸軍臨時軍事費ガ三十一億四千三百萬圓、海軍臨時軍事費ガ八億二千二百萬圓、豫備費六億五千萬圓トナッテ居ルノデアリマシテ、其ノ中陸軍臨時軍事費ハ、作戰兵力ノ維持ニ要スル諸經費、作戰資材ノ整備、在支作戰鐵道ノ管理ニ要スル經費、靖國神社臨時大祭供進金、及ビ今後ノ駐兵等ニ伴フ兵營建築費等ニ關スルモノデアリマス、尙海軍臨時軍事費ハ、支那方面派遣艦船、航空隊、陸戰隊、特設部隊等ノ維持ニ要スル經費、派遣艦船、捕獲艦船等ノ應急修理費、占據地區ニ於ケル兵營宿舍ノ應急施設費、防備、通信、工作、燃料生産、補給等、各種施設ノ應急整備ニ要スル經費、航空機搭乗員ノ急速養成費等ニ關スルモノデアリマス、右歳出ノ財源ハ大部分ハ公債ニ依ルコトトナッテ居ルノデアリマシテ、此ノ金額ハ三十九億二千四百餘萬圓デアリマス、公債金以外ニ於テハ、一般會計ヨリハ昭和十三年、十四年兩年度ニ互ル増稅等ニ依ル增收額ノ繰入金、特別會計ヨリハ通信事業、帝國鐵道及各地特別會計ヨリノ繰入金、其ノ他軍事費獻納金、物品拂下代等ノ雜收入等ノ合計六億八千九百餘萬圓ヲ計上シ、之ガ財源ト致シテ居ル次第デアリマス、以上ガ只今上程セラレテ居リマス臨時軍事費豫算追加ノ大要デアリマス、右豫算案審議ノ爲、豫算委員會ハ三月十日、十一日ノ兩日ニ互リ之ヲ開催シタノデアリマシテ、必要ニ應ジ秘密會ヲモ開イテ十分檢討ヲ重ネ

タノデアリマス、茲ニ委員會ニ現レマシタ質疑應答中重要ナル事項ヲ御報告致シマス、先づ第一ハ生産力擴充計畫ニ付デアリマス、是ハ秘密會ヲ開イテ十四年度ノ物資動員計畫ノ大要ヲ聽取致シタノデアリマス、之ニ關聯致シテ生産力擴充計畫ガ論議セラレタノデアリマス、此ノ際訂正致シテ置キタイト存ジマスコトデアリマス、過日本議場ニ於キマシテ十四年度ノ本豫算ノ審議ノ御報告ヲ申上ゲマス際、十四年度ノ物資動員計畫ヲ聽取致シタヤウニ申上ゲマシタノハ私ノ誤リデアリマシテ、ソレハ十三年度ノ物資動員計畫デアッタノデアリマスカラ、左様御了承ヲ願ヒタイト存ジマス、生産力ノ擴充ハ平時ヨリ之ガ實行ニ著手シ置クベキモノデアッテ、事變ガ始メカラ俄ニ騒ギ立テルガ如キハ遲キニ失スルデハナイカ、生産力擴充ノ理想トシテハ原料ノ自給自足迄行カネバナラス、之ガ爲ニハ科學及技術ノ一段ノ進歩ヲ前提トシナケレバナライノデアッテ、科學的ノ研究ヲ充實シ、及ビ其ノ研究ノ産業化ヲ促進スルコトガ最も必要ナコトデアアル、此ノ科學的動員ヲ徹底ニ行フニアラザレバ、所謂生産力ノ擴充モ机上ニ於テ徒ニ數字ヲ集積シ、又之ヲ配分スルニ終ル虞ガアルト思フ、今日ノ如ク輸入原料ニ依存スルコト多ク、又國際通商上障礙ノ危險性ノアルコトカラ考ヘテモ、原料ノ自給ハ一日モ速カニ其ノ實現ヲ圖ラナケレバナライノデアッテ、科學的動員ハ戰時政策中ニ於テ最重要ナル地位ヲ占メサセネバナライモノデアアル、從テ此ノ際科學總動員ヲ徹底ニ行フ爲ニハ、行政機構ヲ改メ、經費ヲ増加スル必要ガアルト思フ、又生産力擴充計畫ハ日滿支ヲ通ズル計畫デアッテ、

其ノ間ニ統一ガナクテハナライ、滿洲、支那ニ於ケル開發ノ計畫ニ付テモ、多クノ資材努力ヲ本邦ヨリ提供スル必要ガアルト思フガ、資材努力共ニ不足勝ノ今日、此ノ計畫ニ果シテ實現性ヲ期待シテ宜シイノデアアルカ等ノ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府カラハ、生産力擴充計畫ヲ戰時ニナシタ今日ニ於テ始メタノデハ遲キニ失スルノ譏リハアルガ、我ガ國ノ現狀ニ照シ、事變中ト雖モ敢テ之ガ遂行ヲ期セネバナラスト考ヘデアッテ、本年ノ物動計畫中ニモ、此ノ計畫遂行ノ爲ニ必要ナル資材ヲ確保スルヤウ考案中デアアル、又生産力擴充計畫ノ立案ニ當テハ、科學的研究ノ進歩及之ガ産業化ヲ豫期シテ居ル次第デアッテ、之ガ實行ニ當テハ獨リ官廳側ノミナラス、民間ノ協力ヲモ求メ、又官民ノ科學研究ノ結果ヲ十分採リ入レテ遺憾ナキヲ期セネバナラスト思フ、尙最近內閣ニ科學審議會ヲ設置シ、主トシ不足資源ニ關スル研究ヲ促進スルコトトシ、企業院ニモ明年度ヨリ新タニ科學部ヲ設置スルコトトナッテ居ル、又資材努力ノ不足ノ今日、本計畫ノ遂行ハ容易デハナイガ、之ガ立案ニ當テハ物資、資金技術、勞働力等ニ互リ詳細ナル檢討ヲ加ヘタ結果、實現ノ可能性アリトノ確信ヲ得ルニ至ッタモデアアル、併シ之ガ實行ニハ多大ノ困難ヲ伴フコトハ已ムヲ得ザル所デアッテ、官民一致萬難ヲ排シテ之ガ遂行ヲ圖ラネバナラスト考ヘルト云フ答辯ガアッタノデアリマス、次ニ本臨時軍事費支出ニ伴ヒ公債發行ガ非常ニ巨額ニ上ルガ、是ガ消化ニ付、心配ハナイカトノ質問ニ對シマシテハ、政府ハ、公債ノ消化ハ今ノ所、順調ニ行ハレテ居ル、

殊ニ本年ニ入ッテカラハ發行ヲ超エテ消化サレテ居ル有様デアアル、併シ將來トモ多額ノ公債ガ出ルコトデアアルカラ、之ガ消化ニ付テハ十分ノ考慮ヲ拂フ積リデアルト云フ答辯ガアッタノデアリマス、第三ハ、臨時軍事費ハ何時カラ何時迄ノ經費ヲ計上シテアルノデアアルカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、本年二月ヨリ概ネ一箇年間ノ所要ヲ計上シタモノデアルトノ答辯ガアリマシタ、又、次ニ、一委員ヨリシテ、左ノ重要ナル質問ガアリマシタ、此ノ臨時軍事費豫算ナルモノハ、其ノ金額ガ巨大ナルニモ拘ラス、一般會計トノ分界ハ外部ニ於テハ明白デナク、之ヲ例フレバ、臨時軍事費ハ一般會計ニ對シテ豫備費ノ如キ關係ヲ持ッテ居ルヤウニモ考ヘラレル、然ルニ臨時軍事費ハ豫備金ノ如ク毎年議會ノ承認ヲ要求スル必要モナイ、又臨時軍事費ノ大部分ハ會計検査院ニ於テ之ヲ検査スル權能ヲ持ッテ居ライ、而モ一般財政、經濟上ニ及ス影響ニ至ッテハ、非常ニ重大ナルモノガアルニモ拘ラス、議會ノ審議權ハ非常ニ局限セラレテ居ル、斯カル特色ノアルモノデアアルガ、我々ハ唯、一ニ政府及軍部ヲ信頼シテ臨時軍事費ヲ協賛スルノデアアル、即チ我々ハ此ノ臨時軍事費ノ豫算ヲ實行スルニ於テ、政府ノ責任ハ誠ニ重大ナルモノガアルト考ヘル、政府ハ其ノ施行ニ當リテハ、最善ノ努力ヲ盡シ、最大ノ注意ヲ拂ヒ、細心ノ思慮ヲ廻ラサレムコトヲ望ム、且又動品ノ購買等ニ當リテモ、慎シク濫費ノ弊害ノナキヤウ致サレタイト云フ希望の質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シ政府ハ、此ノ豫算ノ使用ヲ誤ル時ハ、其ノ影響ハ重大又深刻ナルモノガアルカラ、適正ヲ期スル爲ニハ十分用

意ト覺悟ガアル、又濫費ヲ戒メ、節約ヲ致スコトニハ十分注意ヲ怠ラナイ積リデアッテ、購買價格等ニ付テモ、陸海軍トモソレト、監督機關ガアツテ監督致シ、研究モ致シテ居ルト云フ答辯ガアツテ居ルアリマス、尙過般ノ張鼓峰事件ノ經費ハ何レノ部分カラ出シタルデアルカ、之ニ要シタル經費ノ總額ハ如何程ニ上テ居ルカトノ質問ガアツテ居ルアリマスガ、政府ハ、右ハ臨時軍事費デ賄ツタノデアル、而シテ其ノ經費ハ此ノ分ダケ切離シテ扱ツテ居ナイ爲、判明シナト云フ答辯ガアツテ居ルアリマス、尙又我が國ノ石油資源ノ不足ニ鑑ミ、燃料問題ノ對策如何トノ實情ニ即スル熱心ナル質問ニ對シマシテハ、海軍ハ固ヨリ石油ノ大ナル消費者デアリ、陸軍モ航空機ノ増強ト機械化部隊ノ發達ニ伴ヒ、石油ハ戰爭ノ能否ニ重大ナル關係ヲ持ツ、政府ハ埋藏資源ノ開發、人造石油ノ製造等ニ十分力ヲ致シ、昭和十四年度ノ豫算ニモ之ガ研究機關ノ擴充並ニ貯油量ノ増加ニ伴フ經費ヲ計上致シテ居ルト云フ答辯ガアツテ居ルアリマス、右ノ外、支那民衆ノ救済厚生ニ關シ、民衆ノ心ヲ把握スル爲ニハ、支那ニ大イニ社會事業ヲ起サネバナラストノ同情アル意見ニ對シ、平沼首相ハ、質問者ト感ラ同ジウスル、支那ノ政權ト力ヲ協セ、之ヲ援助シ、社會事業ニ力ヲ致ス旨ヲ答ヘラレマシタ、又陸相ヨリモ、宣撫班ガ同仁會等ノ協力ヲ得テ、窮民ヲ救済シ又職業ヲ與フルコトニ努力シテ居ル旨ヲ答辯ガアリマシタ、最後ニ、本豫算トハ直接ノ關係ハナイノデアリマスガ、豫算總會ニ於ケル委員ノ御發言ニシテ此ノ際御報告ヲ致シテ置クコトガ最も適當ナリト存ジマス事項ガ

アリマスノデアリマス、一委員ヨリシテ、政府提出ノ議案ヲ慎重ニ審議致スコトハ、貴族院並ニ衆議院ノ當然ノ責務デアリマス以上ハ、政府ニ於テモ兩院ニ對シ均シク慎重ニ審議ヲ致ス機會ヲ與ヘラルコトハ、又當然ノ事デアルト信ズル、然ルニ從來動モスレバ政府ノ提案ガ遅レル爲ニ、會期ノ切迫ニ際シテ衆議院ヨリ重要法案ガ送付セラレル場合ガ尠クナイ、ソレハ今期議會ニ於テモ亦同様デアアル、固ヨリ内閣更迭ノ爲餘儀ナク遅レルト云フ事情モ察セラレルノデハアルガ、會期中ニ十分ナル審議ガ出來ナイト云フ憾ヲ持タナケレバナライコトハ甚ダ遺憾デアアル、何卒政府ニ於テハ相當ノ努力アツテ、議案ガ成ルベク速クニ貴族院ニ送付セラレルヤウ致シタイ、尙義ニ設ケラレタ議會制度審議會ニ於テハ、全會一致ヲ以テ法律案ノ提出ノ速カナルベキコトヲ決定致シテ居ルト云フコトモ承ツテ居ル、是等ノ點ニ付總理大臣ノ御所見ヲ承リタイトノ質問ガアツテ居ルアリマス、之ニ對シ平沼總理大臣ヨリ、左様ナ事實ハ從來モアツタヤウデアリ、今同モ内閣更迭ノ結果遲延致シテ居ルコトヲ認メル、併シ諸法案等成ルベク早く貴族院ニ送付セラレルヤウ努力致シ、希望セラレタル點ニ付テハ將來政府ハ十分考慮ヲ致シテ、之ニ副フヤウニ致シタイト答辯セラレタノデアリマス、委員會ニ於ケル質疑應答ノ大要ハ左ノ如クデアリマシタ、斯クシテ討論ニ入ツタノデアリマスガ、本臨時軍事費豫算追加ハ、時局柄緊切ナル經費デアアルガ故ニ賛成ヲ致ス旨ヲ發言ガアリマシテ、採決ノ結果、全會一致ヲ以テ可決ト相成ツタノデアリマス、右御報告ヲ申上ゲマス

○議長(池田平藏) 別ニ御質疑モナイヤウデゴザイマスルカラ、是ヨリ討論ニ移リマス、通告順ニ依リマシテ發言ヲ御許シ致シマス、建部逕啓君

(建部逕啓君演壇ニ登ル)

○建部逕啓君 今ヲ距ルコト十八年、「アマリカ」カラ「サンガー」ト申ス婦人ガ來朝致シマシテ、日本國民ニ産兒制限ヲ奨メマシタ、其ノ際之ニ隨喜雷同致シマシタ相當知名ノ人士ガ、我が國ニ可ナリノ數アツタノデアリマス、然ルニソレ等ノ人々ハ、今日ニ於テハ人的資源云々ノ主張ニ、殆ド全然無條件ノ轉向ヲ致シマシタ、大正十一年ノ秋十月、「ムッソリーニ」内閣ガ成立致シマシタル際、我が評論壇ニ於キマシテハ、斯カル反動内閣ハ其ノ繼續僅ニ三箇月ヲ出デマイト云フ、而モ都下ノ大新聞ノ一ツニ於テ其ノ意見ヲ發表シタル重要ナル地位ニ居ル論客モアリマシタ、然ルニ其ノ「サンガー」熱ガ十有七年ノ後ノ今日、未ダ天地間ニ現レザルト云フガ如キ、一種ノ滑稽現象モアツタノデアリマス、是ハ前者ノ例ハ操持ノナキノ致ス所、後者ノ例ハ豫言ノ資格ノナイト云フコトノ致ス所デアリマスガ、是皆伸ビ縮ミ常ナラザル「ゴム」ノ尺度ヲ以テ、物ノ長短ヲ測定セムトスルノ過デアリマス、我が平沼内閣總理大臣ハ、其ノ操持ト云ヒ、其ノ經綸ト云ヒ、後世數十年ニ亘ツテ、一以テ之ヲ定メタ人士デアリマス、國本社ノ如キハ濁流ニ處シテ清キ波ヲ揚ゲ、天下靡然トシテ之ニ嚮フ、誠ニ堂々タル經歷ノ持主デアラレルノデアリマス、所謂其ノ徳ヲ恒ニシ、平沼内閣ハ私ハ一ツノ恒徳内閣デアルト敢テ名ツケヨウト思フノデアリマス、私ガ此ノ上程サレツ、アリマス所ノ臨時軍事費豫算ニ賛成ノ意ヲ表スルハ、即チ之ガ爲

デアルノデアリマス、是ヨリ少シク其ノ理由ニ付テ述ベテ見タイト存ジマス、神武天皇都ヲ橿原ニ定メ給ヒシ其ノ時ノ詔勅、改メテ此ノ壇上ヨリ捧讀ヲ致スコトモ、却テ禮ヲ缺クノ嫌ヒガアリマスルケレドモ、敢テ其ノ重要……固ヨリ全部重要デアリマシタ、其ノ一部分ヲ拜讀スルコトヲ許サレマスルナラバ、「恭シク寶位ニ臨ミ以テ元元ヲ鎮ム、上ハ則チ乾靈國ヲ授ケ給ヒシノ徳ニ答ヘ、下ハ則チ皇孫正ヲ養フノ心ヲ弘メ、然ル後六合ヲ兼ネテ以テ都ヲ開キ、八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲サンコト亦可ナラズヤ」ト、斯様ニ拜讀致スノデアリマス、又畏クモ 明治天皇、明治元年三月十四日、明日ガ即チ三月十四日デアルノデアリマス、五箇條ノ御誓文ノ第四箇條ニ「舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ」、更ニ明治二十三年十月三十日ノ詔ニハ「之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス」ト仰セラレテ居ルノデアリマス、尙垂仁天皇二十五年春三月ノ、日ヲ換算致シマスレバ十日ニ相成リマスルガ、畏クモ伊勢大神宮、伊勢ニ御鎮座ノ件ニ「神風ノ伊勢國ハ常世之浪重浪歸スル國ナリ、傍國可憐國ナリ、是ノ國ニ居ラムト欲リス」ト畏クモ天照大神、倭姫命ニ御誨ヘニナツタト云フ記事ガ正史ニ載ツテ殘ツテ居ルノデアリマス、是等ノ思召ヲ篤ト、及バズナガラ拜誦シ服膺ヲ致シマスルト、如何ニ我ガ天祖天孫、皇祖皇宗以來、我が國ノ神ノ大御謨、即チ皇謨ガ如何ニ宏大ニシテ雄偉ナルモノガアリマシタカ、實ニ之ヲ想像スルダニ畏キ感ジガ致サル、ノデアリマス、悠遠ノ古ニ遡リマシテハ、天祖ガ此ノ國ヲ授ケ給フタ、更ニ無窮ノ將來ノ遠キニ及ンデ考ヲ致シマスレバ、十世、

百世、千萬世ノ後ニ至リマスル迄「スミマ」即チ皇孫デアラセラル、方ハ、必ズ正シキヲ養フノ心ヲ弘メナケレバイカス、乾靈國ヲ授クルノ德ニ答ヘ、皇孫正シキヲ養フノ心ヲ弘メルト云フ、此ノ絕對重要ナル條件ノ下ニ於テコソ、然ル後六合ヲ兼ネテ以テ都ヲ開キ八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲スト云フ仰セデアリカト、神武天皇ノ詔ヲ拜承致ス次第デアリマス、抑、此ノ正シキヲ養ヒ、又正シキヲ養フノ心ヲ弘ムト仰セラレハ、人心ヨリ以テ經綸ニ及ブ所以デアリマシテ、即チ天地ノ公道ヲ全ウスルコトデアアルノデアリマス、天地ノ公道ヲ全ウスルト云フコトデアリマスレバ、明治天皇ノ仰セララル、如ク、古今ニ通ジテ謬ラズ中外ニ施シテ悖ラザルハ、是レ當然至極ノ事理デアアルノデアアル、是ニ於テ六合ハ兼ネザラムト欲スルモ自ラ兼ネ、八紘ハ掩ハザラムト欲スルモ自ラ掩フト云フ結果、成績ニ至ラザルヲ得ヌノデアリマス、然ルニ淺薄ナル東西ノ論者濫ニ平和ヲロニス、平和ヲロニスルヤ宜シ、併シナガラ平和ハ果デアアル、平和主義論ハ空論デアアル、列國ガ皆天地ノ公道ニ依ルナラバ、其ノ人、其ノ民ガ皆能ク正シキヲ養ヒマスルナラバ、平和ハ之ヲ避ケムト欲スルモ自ラ至ルニ相違ナイノデアアル、詔勅ヲ拜シマシテ我々ノ猛然トシテ、否寧ロ肅然トシテ、自ラ正サムト欲スルコトハ、皇孫スラ正シキヲ御養ヒ遊バス、況ヤ眇々タル臣民ガ正シキヲ養ハズシテ、單リ國ヲ養フ能ハザルノミナラズ、何ヲ以テ世ニ立ツコトガ出來ルデアリマセウカ、平沼總理大臣ハ實ニ正シキヲ養フノ人デアラセラレマス、殊ニ上ノ御德ヲ仰ギ奉ル所ノ臣下デアラセラルノデアリマス、平沼内閣ハ敢テ私ハ正シ

キヲ養フノ内閣、養正内閣ト名ツクルノ僭越ヲ敢テシタイト思フノデアリマス、以テ其ノ德ヲ恆ニシ、以テ其ノ心ヲ一ニスル、私ハ平沼内閣ガ必ズヤ爲スアルニ足ルコトヲ信ズル者デアリマス、是ガ私ノ本案ニ賛成スル理由ノ一ツデアリマス、諸、龍ヲ得テ蜀ヲ望ムノ類デアリマスガ、内閣諸大臣ハ能ク限ヲ高處大處ニ御著ケニナルデアリマセウカ、更ニ天ヲ相手トシテ人ヲ相手ニセズト云フ、近キ過去ノ我が國ガ產出セル大哲人ノ言葉、之ヲ平生ノ抱負トナサルデアリマセウカ、世界ノ動向、世界ノ所謂大勢、大ナル動向即チ大勢ハ西洋人モ亦知ラザル者ガ大多數デアリマス、大イナル勢ハ即チ大イナル理デアリマス、即チ宇宙大法則ノ現レデアアルノデアリマス、世界人間ノ大勢ハ三轉シ即チ三進スルノデアリマス、三度變轉致シマスルガ、其ノ變轉タルヤ進歩デアリマス、之ヲ或ハ下ヨリシテ中、中ヨリシテ上ト、斯様ニ名ツケテモ宜シイ、番號ヲ打ッテ第一期、第二期、第三期ト名ツクルモ宜シク、又内容カラ申シマシテ、未開ヨリ半開ヘ、半開ヨリ開明ヘト申シテモ宜シイノデアリマス、之ヲ具體的内容カラ申シマスレバ、思想方面ニハ模倣獨斷ヨリ懷疑煩悶ヲ經テ窮理批判ニ進ミ、社會思想ノ方面ニハ物質本位ヨリ個人本位ヲ經テ社會國家本位ニ進ミ、政治思想ノ方面ニハ官本ヨリ民本ヲ經テ國本ニ進ム、大體斯様ナル確然不動ノ、天地自然ノ法則ガ人間界、殊ニ社會界ニ於テアルノデアリマス、近頃西洋ノ一角ニ全體主義ト云フモノガ、實ニ今世紀ノ第三年ニ「オーストリア」ノ某學者ガ唱ヘ出シタト傳ヘラレマスガ、ソレ等ノコトハ誠ニ閑事、物好キノドウデモ宜イコ

トト致シマシテ、彼ノ全體主義ト稱スルモノハ、下ヨリシテ中、中ヨリシテ上ニ至ル、其ノ中間ノ過渡ニ生ズルモノデアリマシテ、即チ上ノ未ダ熟セザルモノト申サナケレバナリマセヌ、而シテ之ヲ各國ノ實際ニ見マスト、「ドイツ」、「イタリー」ハ將ニ其ノ上ナルモノヲ得ムトシテ未ダ頗ル未熟デアアル、疵ダラケデアッタノデアリマスガ、今ヤ日ニ就リ月ニ將ムノ概ヲ以テ年々其ノ面目ヲ進歩セシメツ、アリマス、「イギリス」、「フランス」ハ誠ニ氣ノ毒ナル次第デアリマスルガ、其ノ中ナルモノニ耽溺シテ居リマス、殊ニ惜シムベキハ、物ノ方面ガ進ンデ心ノ方面ガ之ニ伴ヒマセスト云フト、煩悶懊惱、夜トナク晝トナク、彼等ノ心ヲ責メツ、アルノデアリマス、「ロシア」ハ今尙其ノ下ナルモノニ溺没シテ居ルト云フノデ、是ハ評論ノ限りデアリマセヌ、我が皇國ニ至リマシテハ肇國ノ初メヨリ、業ニ既ニ其ノ上ナルモノヲ得テ居ルノデアリマス、是レ即チ國體ノ精華デアアルノデアリマス、古典ニ齊一變セバ魯ニ至ラム、魯一變セバ道ニ至ラムト云フ言葉ガアリマスガ、今日ニ於キマシテ、彼ノ「ドイツ」、「イタリー」ガ我が皇國ト事ヲ共ニ致シツ、アリマスコトハ、是ハ事理ノ自然ニシテ且必然ナルコトト見ル、其ノ根柢ハ右ノ理由ニ存スルノデアリマス、尙私ハ斯様ニ率直ニ評論敘述ハ致シマシタガ、我々ノ親シク交ッテ居リマス所ノ列國ノ凋落スル、次第々々ニ趨キ行ク所ノ勢ヲ見マシテ、誠ニ深甚ナル同情ヲ寄セル者ノ一人デアリマス、デアリマスレバコソ、茲ニ聊カ彼等ノ眞相ヲ剔抉致シマシテ、之ヲ照スニ我が皇道ノ光ヲ以テシテ、以テ其ノ暗イ陰ヲ破リ出シ、苦言ヲ列國ノ人士、殊

ニ列國ノ正人賢士ニ呈セムト試ミル者デアリマス、凡ソ外交乃至宣傳ト雖モガ、養正ノ規正下ニ於テ、機宜ヲ制スルノ範圍ニ止メルベキモノデアリマシテ、是ガ即チ皇道ノ本旨デアアルト、私ハ不肖ナガラ固ク信ズル者デアリマス、然ルニ試ミニ西洋列國ノ歴史、其ノ歴史ニ於ケル汚點ニシテ後世識者ノ指摘ヲ免カレザル、而モ近ク起ツタ事柄數箇條ヲ述ベテ見マスレバ、國際聯盟ガ其ノ一ツデアリマス、是ニハ最モ大切ナル道德的要素ガ缺ケテ居リマス、「ワシントン」會議ガ其ノ二ツデアリマス、九箇條約、特ニ支那事變ノ對處策トシテノ「ブリュセル」會議ガ其ノ三ツデアリマス、蔣政權ニ對シテ彼ヲ私利ノ爲ニ願デ使フ、願使スルト云フノガ其ノ四ツデアリマス、「スベイン」事變ニ對シ、「チエッコ」併合事件ニ對シ、手ヲ翻セバ雲トナリ、手ヲ翻セバ雨トナル、翻覆外交、一名曲乘外交ガ其ノ五ツデアリマス、香港、緬甸、「インド」支那、「インド」是等ノ地學上ノ固有名稱ハ殆ド一トシテ列國ノ正人賢士ニ遺サレタル回顧ト反省ト、改過遷善トヲ要求スル所ノ記念塔ニアラザルハナイノデアリマス、彼ノ南米、彼ノ南洋、是等ノ過去或ハ二世紀、或ハ一世紀ニ於ケル變遷ヲ看來タリマスルト云フト、若シ世界列國ノ正人賢士ト雖モガ、改メズ遷ラズト云フコトニ止マリマスルナラバ、大「スベイン」ノ運命ト云フモノガ又明日、各國ノ運命トシテ至ラザルトハ何人ガ之ヲ保證出來ルデアリマセウカ、加之列國ト云フモノハ早ク既ニ衰ヘル勢、衰勢ヲ呈シテ居ルノデアリマス、過去ヲ回憶スル時ニ於テ良心ノ苦痛ト云フモノノ伴フ、是ハ頗ル困難ナルコトデアアルト申サレヤウナ

事實ガ、世界各國ニ於テナイノデアリマセ
ウカ、西洋文明ハ燦然タルモノデアリマス
ガ、今日ニ於キマシテハ其ノ宗教モ、其ノ
科學モ、共ニ徹底ヲ缺イテ居ルノデアリマ
ス、加之風俗ノ墮落頹廢ト云フコトガ、次
第次第ニ高マリツ、アリマス、是等ノ總結
果ト致シマシテ、具體的ニ現レツ、アリマ
スルノガ人口減衰ノ大現象デアリマス、是ハ
明カニ社會病症ト云フベキモノデアリマシ
テ、最近四十年間ニ於テ人口一千ニ付テノ
自然増加率「イタリー」ハ一二・二カラ九・四
ニ低下シ、「ドイツ」ハ一五・五カラ七・一ニ低
下シ、北米合衆國ハ一四・四ヨリ六・一ニ、
「イギリス」本國ハ一一・〇ヨリ三・二ニ、「フ
ランス」ニ至リマシテハ四十年前ノ一・二カ
ラ今日ハ「マイナス」〇・四ト迄墮落シテ居
ルノデアリマス、之ニ對比致シマシテ我が
國ハ昭和十一年ノ自然増加ガ内地ハ一二・
四、帝國全體トシテモ一二・二ヲ示シテ居
ル、實ニ白人ノ所謂強國ノ社會ニアリマシ
テ、人口減衰ノ急潮ハ澎湃トシテ岸ヲ洗ヒ
巖ヲ嚙ミツ、アルト云フコトハ、區々タル
是ダケノ數字ヲ以テモ十分察知出來ルノデ
アリマス、併シナガラ列國ニモ亦大イニ人
無キニアラズ、否大イニ人ガ有ルノデアル、
而シテ人ニハ又道ト云フモノガアルノデア
リマス、「ローマ」法王ニハ格別ノ人ガアリ
マセズトモ、二千年前ノ青年宗教家「イエ
ス・キリスト」ハ凍々トシテ今日ニ光ッテ居
リマス、西洋進歩ノ最大ノ先鋒トモ言フベ
キ「ムソリ」ニ君、「ヒットラー」君ハ「ド
イツ」、「イタリー」ニ生レテ居ル、是ハ事
新シク申ス迄モアリマセスガ、彼ノ士君子
道トモ云フベキ堂々タル一個ノ道德、一個
ノ風俗ハ、是ハ英國ノ產物デアリマス、正

シキヲ履シテ恐ルル母レ、ト、之ヲ一世ノ
主義トシタ「ジョン・ブライト」ノ、六日間
ハ國事ニ鞠躬シテ、第七日目ニハ田舎ノ農
翁ト村落ノ寺院ニ於テ、田舎牧師ノ説教ヲ
聽ク、「グラッドストーン」彼等ハ英國ノ產物デ
アリマス、幼少ノ時ニハ正直、中頃ニハ國
ヲ建テ、晩年ニハ恬淡ノ生活ヲ營ンダ「ワ
シントン」世界ニ於テ動モスレバ他國ヲ植
民地化セムトスル、奴隸化セムトスル此ノ
風潮ガ跋扈致シテ居リマス現代、若シク
ハ近キ過去ニ於キマシテ、率先シテ自國ノ
奴隸制度ノ廢止ヲ唱ヘマシタ所ノ「リンコ
ン」其ノ國ノ民衆ガ滔々タル產兒制限
ノ罪惡ノ病症ニ沈マムトシツ、アル時ニ、
我が一億ノ國民諸君ハ、今ヤ民族の自
殺ノ大罪ヲ犯シツ、アルト絶叫シテ、其ノ
國ヲ警告セル「セオドル・ルーズヴェル
ト」、是等ハ皆、北米合衆國ノ產物デア
ルノデアリマス、自由ハ罪惡ノ溫床デア
ルト死ニ臨ンデ絶叫シタ「マダム・ロオラン」、百十
年前ノ昔、過去ニアリマシテ、一切ノ個人主
義ハ沒落スルモノナリト大豫言ヲ與ヘテ、
國民竝ニ世界ヲ導キマシタ所ノ「オーギュ
スト・コント」、是等ハ皆「フランス」ノ產物デ
アルノデアリマス、然ルニ當該國民ト云フ
モノハ多ク之ヲ忘レマス、自國過去ノ偉人
ヲ忘レ、其ノ豫言ヲ反古ニスル所ノ國民ハ、
人カラ之ヲ見、敵國カラ之ヲ見マスレバ、
誠ニ與シ易キ國民ト見エラレマス、併シ大
慈大悲ノ天カラ見マスルト云フ
ト、彼等ハ實ニ憐レムベキ赤子デア
リマス、此ノ點ニ付キマシテ我が國モ動
モスレバ極メテ一小部分カモ知レマセスガ、
此ノ弊ナキニアラズデアリマス、凡ソ世界
各國右ノ如キ英傑偉人、我ハ是ト相提携致

シマスルヲバ、皆以テ皇道ヲ實現スル所
ノ一方ノ雄ト任ズベキ者デア
リマス、此ノ手續、此ノ手段ニ依ッテ翼贊ノ功
ヲ成スベキモノデアリマス、今日我が國ガ
支那事變ニ於テ行ヒ、且施シツ、アル所ハ
正ニ之ニ外ナラスノデアリマス、其ノ志ヲ
共ニシ、其ノ道ヲ同ジウシ、其ノ德ヲ一ニ
シテ居リマス所ノ世界ノ正人賢士ト事ヲ謀
リ、功ヲ建テ、以テ世界人間ノ進運ヲ致ス
ト云フ、是コソハ即チ六合ヲ兼ネ八紘ヲ掩フ
所以デアリマス、是レ即チ皇化ヲ世界ニ及
ス所以デアリマス、是レ即チ大義ヲ四海ニ
布ク所以デアリマス、是レ實ニ天地ノ公道
ヲ行フ其ノ事デアリマス、是レ皇謨即チ國
是、國是即チ皇謨ヲ現成スル所以デア
リマス、此ノ事ハ固ヨリ明々又白々デ
アリマシテ、然ルニ動モスレバ之ヲ指斥シ、
動モスレバ之ヲ排斥シ、動モスレバ之ヲ擯
斥シテ至ラザルコトナキハ、直チニ是レ個
人本位、自個擴張、權利自由ト云フヤウナ
癡疾、半開思想其ノモノ、行詰リデア
リマス、我が國ガ、又我々ガ西洋ノ勢
力ノ東方ヲ壓スル、西勢東壓ヲ排シテ居
マスコトハ、西ヲ惡ムガ爲メデハナイ、唯
半開カラ來ル所ノ暗闇ヲ排斥スルノデア
リマス、東ヲ掲ゲテ西ノ來リ侵スコトヲ排
致シマスノハ、特ニ身最眞デ東ヲ誇ルノデ
ハナイ、東ヲ掲ゲルニアラズシテ即チ光ヲ
揚ゲルコトニ外ナラスノデアリマス、光ハ
東ヨリスコト云フコトハ、西洋人モ口癖ニ申
スコトデアリマスガ、私ハ茲ニ一問ヲ發シ
タイ、西洋人ハ能ク暗闇ハ西ヨリスコト云
フコトヲ認メ、且之ヲ首肯スルヤ否ヤ、我が
平沼内閣ハ恆德内閣デアラセラル、私ハ
是等ノ點ニ於テ必ズ能ク成ス所アラレルヲ

信ズル者デアリマス、是レ私ガ本案ニ贊成
スルノ第二理由デアリマス、更ニ第三點、
總理大臣以下内閣閣僚、政府ノ方々ハ皆一
致シテ長期建設ト云フコトヲ仰セラレ、
併シナガラ非常時デアルト云フコトヲ以テ
内政ヲ閑却セラル、コトガ萬一アリトセバ、
是ハ甚ダ理由ノナイコトト申サナケレバナ
ラス、長期建設ニ既ニ入ッテ居リナガラ、尚
爲スベキコトヲ爲サズト致シマスレバ、即
チ是ハ永久爲サザルト云フコトニナリマセ
ヌデセウカ、斯様ナコトヲ想像シテ平沼内
閣ニ對スルト云フコトハ、實ニ想像スルダ
ケデモ禮ヲ失スルコトト私ハ自ラ責メザル
ヲ得ヌノデアリマス、明治四十一年十月十
三日、明治天皇ノ詔書ノ御言葉ノ中ニ「戰
後日尙淺ク庶政益更張ヲ要ス」改革トカ改
新トカ云フコトハ少シク新シクテ、マダ餘
リ好クナイ香モ致スト感ズル人ガアリマス
ナラバ、此ノ庶政更張ト云フ此ノ御言葉ヲ、
更ニ拳々服膺シタラ如何ナモノデアリマセ
ウカ、誠ニ一例ヲ舉グルコトヲ許サレマス
ナラバ、此ノ議會ニ於キマシテ、此ノ議場
ニ於キマシテ阪谷男爵ガ、天地ノ公道ト云
フガ如キ言葉ハ、今ノ青年乃至成人ト雖モ
ガドウモ能ク分ラヌコトデア
リマス、老練ニシ
テ經驗ニ富ンデ居ラレル阪谷男爵ガ斯様ニ
仰セラレタ、若シ果シテ是ガ事實デア
ルト致シマスレバ、是レ抑誰ノ責ザヤ、誰
ノ過ザヤ、而シテ教育ハ行ハレタリ、教
政ハ立テリト申スコトガ出來マセウカ、學
問トハ何ゾヤト云フ此ノ疑問ヲ解決セズシ
テ何ノ學問ガアリマスルカ、教育ノ淵源明
カナラズシテ何ノ教育ガアリマセウカ、
國體ノ精華ヲ仰ガズシテ何ノ國體明徴ガア
リマセウカ、昨年ノ初夏ノ頃、荒木文部大

臣ハ新タニ其ノ椅子ニ御就キニナリマシタ
ガ、其ノ時ニ嘗テ陸軍大臣ノ椅子ニ御就キ
ニナツタ時ニ較ベテ、大臣ノ前後左右ノ風物
光景ハ、大臣ニ如何ノ感ヲ與ヘタデアリマ
スカハ、若シ私ガ特ニ親交ヲ賜フテ居ル身分
デアリマスルナラバ、伺フテ見タイヤウナ氣
ガセヌデモナイデアリマス、凡ソ人格ニ
認識ガ最モ不徹底ナルハ、我が教育並ニ行
政ノ各部門ニ於キマシテ、何レノ方面ニア
ルト申スベキデアリマセウカ、人ト云フモ
ノハ久シク隸屬ノ地位ニ立チ、甚ダシキハ
奴隸ノ境遇ニ永ク立チマス云フト、久シ
ウシテ遂ニ自主ノ心ヲ失フモノデアリマス、
自主ノ心ヲ失フテ居ル者ガ萬一教育ニ當リ
マスト雖モ、ソレハ、能クスル處奴隸教育ニ
止マルノハ、自然且必然デアリマセウ、漫
ニ支那ガ植民地化シタト云フコトヲ笑フコ
ト勿レ、我が國ノ精神生活ニ於テモ、植民
地化ノ現象ガ若干浸潤シ來リツ、アルト云
フ事實ガ毛頭ナイナラバ、我々ハ誠ニ雙手
ヲ舉ゲテ萬歳ヲ叫バザルヲ得ヌデアリマ
ス、然ラバ其ノ他ドナ事ガアラウカ、私
ハ政治ノ方面ニ付テ枚舉主義ヲ執ル位ノコ
トデ、總テヲ述ベルコトハ出來マセヌガ、
例ヘバ地方自治改革ト云フ大事業モアリマ
セウ、法律殊ニ民法ノ修理完成並ニ司法行
政ノ更張ト云フコトモアリマセウ、議會制
度ノ根本考究ト云フコトモアリマセウ、外
政當事者ノ養成方並ニ簡拔法ヲ刷新スル
ト云フ問題モアリマセウ、國防國交一元論ノ
根本考察ト云フ問題モアリマセウ、文武合
體精神及ビソレニ對應スル所ノ制度ノ徹底
及完成ト云フ問題モアリマセウ、是等ハ申
ス迄モナク皆内政更張ノ内ニ入ルベキ頗ル
肝要ナル事項デアアルデアリマス、明治三

十七年七月十一日、東京帝國大學卒業式ニ、
畏クモ三伏ノ炎暑ヲ冒シテ、明治天皇ハ行
幸ヲ賜リマシタ、此ノ時ニ本學總長事務取
扱松井直吉ヲ御前近ク御召シニナリマシテ、
御沙汰書ヲ天下一般ノ教育當事者並ニ教育
行政當事者ニ賜リマシタ、畏多ウゴザイマ
スルガ故ニ捧讀致シマス、軍國多事ノ際ト
雖モ教育ノ事ハ忽ニスヘカラス其局ニ當ル
者克ク勵精セヨ、軍事ノ匆忙ナルガ爲ニ文
政ヲ閑却スルト云フコトハヤツデハイケマ
セヌ、外政ノ基礎ガ内政ニ在ルト云フコト
ヲ忘レテハイケマセヌ、内政更張ハ政治ノ
統後奉公其ノ事デアアルト私ハ敢テ申シタイ
デアリマス、仄カニ承リマスルト、此ノ
頃東京ノ市會議員並ニ府會議員百有餘ノ諸
君ガ、相繼テ道會ト云フ團體ヲ設ケ、智
恩報德ノ修行精進ヲナサムトスル、市會、
府會ノ歴史ヤ其ノ他ニ付テハ、私ガ本議場
ニ於キマシテ最モ僅カ存ジテ居ル者デアアル
ト確信致シマスルガ故ニ、ソレ等ニハ一言
モ觸レマセヌガ、蓋シ或方面ノ闇雲ト云フ
モノハ、是カラ去ルベキデアラウト思ヒマ
スルノデ、誠ニ是ハ是等ノ人士ニ對シテハ
深甚ナル敬意ヲ表シ、社會風教ノ爲ニ雙手
ヲ舉ゲテ喜ブベキコトデアルト存ズルノデ
アリマス、又仄カニ承リマスレバ、平沼内
閣總理大臣ニハ、遠カラズ御禮道場ト云フ
モノヲ村山貯水池畔ニ御建デニナルデアラ
ウカト云フヤウナ、是ハ所謂京童ノ傳ヘ、
新聞ガ申スダケデアリマスルノデ、之ヲ確
カニ左様ト申スノデアリマセヌケレドモ、
假ニ若シモ是ガ事實デアルトシマスルナラ
バ、其ノ期セラレ、所、其ノ將來ニ成シ
遂ゲラル、所ハ實ニ仰ギ見ルベキモノガア
ルデアラウト存ジマス、併シハ何ト申シ

テ宜シイカ、私事トハ申サレマセヌガ、兎
ニ角公ノ事其ノ事デハナイ、假ニ私事ト
云フコトヲ、此ノ所デ假ニ御許シテ願フコ
トガ出來マスルナラバ、私事ニ於テスラ
クノ如ク百年ノ長計ニ御著手ニナル、ソレ
ダケノ餘裕ヲ御持チデアリマスルナラバ、公
事ノ方面、内政更張ト云フ方面ニハ重要ナル
御施設、大イナル御努力ヲ遊バスコトハ、是
レ固ヨリ當然ト考ヘマス、是レアルガ故ニ、
私ハ平沼内閣ハ決シテ内政更張ヲ閑却遊バ
レナイト云フコトヲ確信致ス者デアリマス、甚
月ニシテ、而シテ庶政一新、面目ヲ一新スル
デアラウト云フヤウニ考ヘタイ、我々ガ今
ヨリ九箇月ノ後ニ、再び帝國議會ニ於テ總
理大臣並ニ内閣諸大臣ニ拜晤致シマスル場
合ニ於キマシテハ、是等ノ事ガ蓋シ大部分
事實トナツテ現レテ居ルコトデアラウト確
信致ス者デアアルデアリマス、是ガ私ガ本
豫算案ニ贊成スル理由ノ第三デアリマス、
次ニ是モ私ノ甚ダ不得手ノ方面デアリマス
ルガ、豫算ト云フモノニ對シテ、數字ヲ偏
重シ、其ノ實施活用ノ内容ト云フモノヲ、
稍、輕ク視ルノデハナイカト云フ一ツノ弊ガ
我が國ノ政界、官界ニアルノデハナイカト
云フ此ノ感ジデアリマス、併シナガラ數字
ハ同一デアリマシテモ、政務ヲ實施スル
云フ點ニ於テ其ノ活用内容、是ニハ優レ
ルト劣レルト、實ニ千種又萬別デアルト申
サナケレバナラス、或軍人デアリマスル
ガ、ソレガ或調査審議機關ヲ評シテ申シマ
シタ、是ハ天下ニ公ニシテ居ル所ノ印刷物デ
申シテ居ルノデアリマス、是ハ前科者ノ寄
リ合デアルト、言葉ハ固ヨリ氣遣ヒニ近イ
モノデアリマス、言フ者ニモ罪無シデハナ
イ、罪ガアルケレドモ、聞ク者ハ幾分自ラ

警ムルニ足ルコトデアルト思ヒマス、平沼
内閣總理大臣ハ其ノ德ヲ恆ニシ、殊ニ精忠
ノ念ヲ以テ鞠躬盡瘁スベク奉仕ヲ遊バサレ
ル所ノ、畏多クモ至尊 陛下ノ股肱デアラ
セラレ、私ハ平沼總理大臣並ニ平沼内閣
ガ、豫算ヲ活用スルニ於テ斷ジテ其ノ内
容ヲ誤マラザルト云フコトヲ確信致ス者
デアリマス、是レ四十六億ト云フ大豫算ニ
對シ、何等其ノ數字ニ對シテ、威壓ヲ蒙ル
ノ感モナク、絕對ニ此ノ大豫算ニ對シテ贊
成ノ意ヲ表スル其ノ理由ノ第四デアリマス、
茲ニ聊カ結末ヲ加ヘルコトヲ御許シ願ヒマ
ス、明治三十六年十月五日、對露同志會ノ
全國大會ガ東京歌舞伎座ニ開カレマシタ、
其ノ時ニ先公舊近衛篤磨君ハ已ニ宿病膏肓
ニ入りテアラレマシタ、病床カラ特ニ覺書
ヲ寄セラレマシタル其ノ書中ニ斯様ノ句ガ
アリマス、「余ハ不幸ニシテ今春以來大患
ニ罹リ今日尙ホ諸君ト共ニ邦家ノ爲ニ盡力
シ能ハザルモ、而モ病床寢寐、現今ノ時局
ニ對シ、從ラニ苟且姑息ニ流レテ其ノ解決
ヲ誤ルガ如キコトナカラムコトヲ憂慮シツ
ツアルモノナリ、此ノ精忠日月ヲ貫クトデ
モ申シタイヤウナ訓ヲ遺サレマシテ、ソレ
ヨリ八十六日ノ後三十七年正月元旦ニ遂ニ
薨去サレマシタ、年四十二、今ノ公舊近衛文
麿君ハ其ノ時ニ年、甫メテ十四、猶、是ヨリ
四十日ニシテ我々五千萬皇國ノ臣民ハ、畏
クモ征露宣戰ノ大詔ヲ拜シタ次第デアリマ
ス、日月匆々三十三年、昭和十二年六月四
日ニ近衛公爵ハ大命ヲ畏ミテ内閣ヲ組織サ
レマシタ、越エテ一箇月經チマスルト支那
事變ト云フモノガ突發致シタ、併シ支那事
變ハ是レ天ノ數デアリマス、有史以來國運
發展ノ大イナル第八段ガ此ノ支那事變ニ依ッ

テ幕ガ切ッテ落サレタノデアリマス、楠正成ハ七生滅賊ヲ誓ウタノデアリマス、近衛先公爵ハ此ノ内閣ノ成立、此ノ支那事變ノ突發ヲ以テ再ビ生レ復ッテ來ラレト申シテ宜シイノデアリマス、克ク忠ニ克ク孝ナラザルベカラザル「爾臣民」ト、明治天皇ハ御呼掛ケ下サイマシタ、我々臣民共ノ第一人者齒正ニ壯デアリマス所ノ近衛文麿公爵ハ、一天萬乘至尊、陛下ノ内閣總理大臣デアリ、一億ノ我々御民ノ首相其ノ人デアラレタノデアリマシタ、次デ同心一體ノ恆德重厚ナル平沼總理大臣ガ之ヲ承ケラレマシタ、其ノ内閣ニハ近衛無任所大臣ト云フ方ガ列セラレルノヲ見ルノデアリマス、若シモ世ノ中ニ政治的英斷ト云フモノガアリマスルナラバ、

現ノ新段階ニ勇進邁往セムトシツ、アルノデアリマス、其ノ公ニ奉ズルニ於テ鞠躬身ヲ致サル、ト云フコトハ、知ルベクモアリ、亦期スベキデアアルノデアリマス、最後ニ聖戰第一線ヲ初トシ、私ハ百將萬軍ノ盡忠至誠ニ對シ、深甚絶大ノ感謝ヲ捧ゲマシテ、更ニ恭シク皇運ノ無窮ヲ祈リ奉リ、謹ンデ國運ノ隆昌ヲ祝シ、以テ私ノ賛成演説ヲ結ブコトニ致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 岩倉男爵

(男爵岩倉道俱君演壇ニ登ル)

斯クノ如キガ即チ平沼内閣ノ劈頭、否平沼内閣ノ組織誕生ノ厥ノ初ニ於ケル一大英斷ト頌揚スベキ重大ナル善政デアアルノデアリマス、對外的、對事變の重大意義ハ固ヨリ論無し、更ニ其ノ道德の重大意義、所謂忠孝一門ニ萃リ、天下ニ矜式シ、萬世ニ昭耀スル、斯クノ如キ美事ヲ政治ヲ通シテ成シ遂ゲラレタノガ、我ガ平沼内閣總理大臣デアラル、ノデアリマス、尤モ法律論議モ世ノ中ニ出マシタガ、是モ亦必ズシモ無用デナイト言フダケニ止メテ置キマス、今ヤ平沼内閣ハ、總理大臣ノ其ノ德ヲ恆ニセラル、ト、殊ニ又各大臣ガ感激シテ相許シ、或人々ハ内閣ヲ去ラシ、或人々ハ新タニ内閣ニ入ル、何レモ是レ感激、相許セル者ニ非ザルハナシ、功名誰カ復論ゼムト云フ意氣ト、總理大臣ト各大臣トノ此ノ高尚ナル思想ト、此ノ熱烈ナル意氣トヲ以テ、新タニ我ガ帝國議會ノ明鏡相照スガ如キ協賛ヲ擁シテ、上下一致シテ益、正シキヲ養フノ心ヲ弘メ、將ニ經綸實

○男爵岩倉道俱君 我ハ本豫算ヨリ遙カニ多額ノ此ノ陸海軍ノ臨時軍事費ノ協賛ヲ致シマスニ付テ、一言簡單ニ賛成ノ趣旨ヲ申述ベタイト思ヒマス、昔カラ富國強兵、富シマスガ、非常ニ含蓄ノ深イ言葉デアアルト私ハ思ヒマス、所謂士農工商ノ子弟ガ陸海軍ノ兵士トナリマシテ、戰線ニ於テ所謂一死ヲ鴻毛ノ輕キニ比シ、所謂安シテ君國ノ爲ニ殉ズル、是ハ我ガ國ノ世界ニ冠タル美風デアリマス、動モスレバ此ノ時局ノ重大ナル爲ニ物事ガ行過ギル傾向ガゴザイマス、或田舎デハ、「ラデオ」ハ戰況、「ニュース」ノ外聽イチャイカスト云フヤウナ極端ナ所モアリマス、斯クノ如キ所謂焦燥氣分デハ、逆モ長期抗戰ハ私ハムツカシイト思ヒマス、ソレデ所謂前線ノ兵士ノ安シテ君國ニ殉ズル爲ニハ、矢張り我ガ家庭ト云フカ、後方ノ我ガ國內ト云フモノガ所謂民業安堵、家計裕カト云フコトガ不可分ノ問題デアルト思ヒマス、デ私ハ、此ノ大豫算ヲ實行サレルニ當リマシテ、富國強兵ト云フコトヲ政府ノ當路者ハ十分念頭ニ置カレマシテ、出來ルダケ士農工商ノ生産ヲ安堵ヲセシメ

ルト云フ深キ心遣ヒヲ以テ、此ノ豫算ヲ實行シテ戴キタイト切ニ希望スルノデアリマス、是ハ近イ例ヲ申上ゲマス、今カラ十數年前、露國ト張作霖時代ノ滿洲ト、戰端ヲ哈爾濱北方ニ於テ開キマシタコトガゴザイマス、其ノ時ニ「ロシア」デハ、戰線ノ兵士ノ給與ヲ豐カニシタイト、所謂軍紀ニ關スルト云フノデ、有ラユル物資ヲ戰線ニ集中致シマシタ、戰線ノ兵士カラハ故郷ニ對シ、我々ハ戰ニ來テ居ルケレドモ、毎日「バター」ヲ舐メテ居ル、毎日牛肉ヲ食ッテ居ル、防寒具モ十分デアルト、所謂安心ノ爲ニ故郷ニ通信ヲ致シマシタ、然ルニ故郷カラ之ニ對シテドンナ返事ガ來マシタカ、戰爭位詰ラヌモノハナイ、我々ハ一月以上「パン」ヲ食ッタコトハナイ、「バター」ノ如キハ臭ヒモ嗅イダコトハナイ、殆ド動物ノ飼料ニ等シイヤウナ食物ヲ與ヘラレテ、辛ウジテ命ヲ繋イデ居ルト云フヤウナ、戰爭ニ對スル非常ナル不平ト不滿ノ手紙ガ戰線ノ兵士ニ來タノデアリマス、ソレガ爲ニ非常ニ戰線ガ動搖シマシテ、將ニ崩レカケムトシマシタ時ニ、其ノ當時支那ニ無カッタ爆撃機ヲ「ロシア」ガ急遽呼ビマシテ、張作霖ノ軍ヲ爆撃シマシテ、僅カニ戰局ヲ收メタト云フ極ク近イ實例ガアリマス、私ハ先程極端ナル「ラデオ」ノ例ヲ申上ゲマシタガ、ソレニ類シタ事ガ間々澤山アルト思ヒマス、ドウカ民業安堵、戰線モ大事デアルト共ニ、之ガ源泉デアリ源デアアル民業ノ安堵ト云フコトニ付キマシテ、十分ニ御考慮ヲ拂ハレマシテ、此ノ豫算ヲ御實行ニナラムコトヲ切ニ希望スル次第デアリマス、今一ツハ所謂陸海軍ノ充實、是ハ所謂武士ノ兩刀デアッテ、手利キノ武士ガ優レタ刀ヲ

差シテ居リマス、容易ニ敵ガ馬鹿ニシナイ、ノミナラズ所謂平和ノ裡ニ問題ヲ解決シ得ルノデアリマス、我ガ國ハ陸海軍ガ優レタル、優秀ナル、世界ニ冠タル素質ヲ持ッテ御イデニナルコトハ、國民ト共ニ非常ニ喜ブ所デアリマス、是ト同時ニ、此ノ有力ナル陸海軍ヲ背景トシマシテ、政治外交ニ於テ有力ニ御活動ニナッテ、有終ノ美ヲ濟シテ戴キタイ、支那事變ハ戰爭デハアリマセヌガ、我ガ國ト「ロシア」トハ締盟國デアリマス、然ルニ拘ラズ、兩國ノ間ニ協調サレテ居リマシタ漁業ノ問題ノ如キモ、此ノ十五日ニハ不法ヲ競賣ヲ將ニ施行セムトシテ居ルノデアリマス、新聞、輿論ハ非常ニ之ヲ重大視シテ、喧々囂々ノ聲ヲ上ゲテ居リマス、是ハ儼然タル基本條約ガ「ポーツマス」條約ニ依ッテ結バレテ居リマスノデ、區々タル手續法ニ依ッテ此ノ目的ヲ阻害スル如キハ、所謂締盟國間ニアルベカラザルコトデアリマス、併シナガラ露國ノ不當ナル進出ノ爲ニ、壓迫ノ爲ニ、今ヤ日本ハ今年ニ限ッテ、之ガ對抗ノ爲ニ、所謂三哩以外ノ公海デアリマス沖取ノ漁業ヲ特ニ強化致シマシテ、毎年百七十艘シカ行カナイ所謂機械ノ附イタ獨行船ト云フモノヲ、農林省ハ本年ニ限ッテ百三十艘増加サレマシテ、三百艘ノ所謂大船隊ヲ以テ北洋ノ沖取ニ進出セムトシテ居ルノデアリマス、恐ラクハ是ハ「ロシア」ノ漁場ノ前ニ行ッテ網ヲ張りマシテ、「ロシア」ノ漁場ニ行クベキ魚ヲ三哩先デ取ルト云フ計畫ト私ハ思ヒマス、併シ斯クノ如キコトハ今日ノ情勢已ムヲ得ナイ牽制ノ政策デアリマスガ、元來鮭、鱒ト云フモノハ眞水ヲ慕ッテ河ニ入ッテ魚ヲ生ムノデアリマス、河ニ入ッテ魚ヲ生ムベキ魚ヲ、河

ニ入ラサナイデ外デ獲リマス云フコトハ、繁殖保護ノ上ニ於テハ甚ダ遺憾ナコトナノデアリマス、極端ニ之ヲヤリマスレバ日本ノ魚ト、ロシヤノ魚ト區別シテアル譯デアリマセヌカラ、極端ニ斯ウ云フコトヲ繼續致シマスレバ、所謂北洋ノ魚ト云フモノハ、十年ヲ出デズシテ無クナルガラウト思ヒマス、斯クノ如キコトハ鮮鱈ニ取ツテハ誠ニ無慈悲ナ政策デアリマシテ、是ガ外交上ノ交渉ニ依リマシテ、圓滿ニ解決シマスナラバ所謂北洋ノ魚ノ問題ハ、百年ヲ繼續シテ日露兩國トモ永久的ニ産業トシテ成立シ得ルモノト思ヒマス、今ヤ此ノ臨時軍事費ノ中ニハ、恐ラクハ北洋ノ警備費ト云フモノガ相當含マレテ居ルト思ヒマス、私ハ三月十五日ノ競賣ヲ目ノ前ニ見マシテ、

外交當局ノ御努力ニ依リマシテ、「ロシヤ」ト圓滿ナル解決ニ達シマシテ、若シモ北洋警備費ノ一部分ヲ要ラナクナルヤウナコトガアレバ、非常ニ私ハ結構ダト思ヒマス、其ノ意味ニ於テ私ハ今日ハ重大ナル追加豫算計上ノ日ト思ヒマシテ、此ノ點ハ外務大臣ノ御奮闘ヲ冀ヒマシテ、本豫算ヲ協賛スル次第デゴザイマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ討論ヲ終リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガナケレバ本案全部ヲ問題ニ供シマス、本豫算案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

(議員起立)
○議長(伯爵松平賴壽君) 議員起立、全會一致ト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 議事ノ都合ニ依リマシテ一時休憩ヲ致シマス、午後ハ一時半ヨリ開會致シマス

午前十一時三十三分休憩

午後一時四十三分開議
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 休憩前ニ引續キ、午後ノ會議ヲ開キマス

○子爵井上匡四郎君 動議ヲ提出致シマス、日露漁業問題ニ付テ外務大臣ニ對シ、此ノ際緊急質問ヲ致シタイト思ヒマス、特ニ御贊成ヲ願ヒタイノデアリマス

○伯爵兒玉秀雄君 贊成

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 井上子爵ヨリ、此ノ際緊急質問ヲ致シタイト動議ガ提出セラレマシタ、井上子爵ニ緊急質問ヲ許スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイト認メマス、井上子爵

(子爵井上匡四郎君演壇ニ登ル)
○子爵井上匡四郎君 私ハ茲ニ政府ニ對シ、緊急質問ヲ致サント欲スル者デアリマス、即チ日露漁業問題ニ付テ政府ノ所信ヲ伺ヒタイト考ヘルノデアリマス、御承知ノ如ク漁業ノ競賣ハ「ソ」聯政府ノ告示ニ依リマスト云フト、明後十五日ニ舉行セラル、コトニナツテ居ルノデアリマス、日本側ニ於キマシテハ、此ノ競賣ニ應ゼザルコトニ決定致シテ居リマス、蓋シ此ノ事タルヤ單ナル北洋ニ於ケル漁業ト云フ簡單ナル經濟問題ニ止マリマセヌデ、之ニ伴フ重大ナル政治的ノ意義ガ包含サレテ居リマスルノデ、私ハ此ノ演壇ニ起ツテ敢テ政府ニ其ノ所信ヲ質問セムトスル所以デアリマス、先ツ質問ニ入リマス前ニ、北洋ニ於ケル我が漁業權ヲ繞ル歴史ニ付テ、出來ルダケ簡單ニ御説明申シテ見タイト考ヘマス、古イ歴史ハ慶長四年松前藩ガ蝦夷地支配ノ覇權ヲ握ルニ始マリマシテ、二百餘年間我ガ祖先ノ北洋ノ

風雪怒濤ヲ蹴ツテ、北方開拓、北洋ノ我ガ權益ノ基礎ヲ築イタ事實ヲ顧ミマスレバ、今日ノ北洋漁業權ハ過去二世紀ニ亙ル我が既得權益デアアルコトハ、史上ニ燦トシテ明カナル事實デアリマス、而シテ是ガ「ロシヤ」トノ間ニ條約トシテ確認セラレマシタノハ、實ニ日露戰爭ノ結果トシテ、明治三十八年締結セラレマシタ「ポーツマス」條約第十一條ニ據ルノデアリマス、此ノ第十一條ハ下ノ如クデアリマス、「露西亞國ハ日本海、オコーツク海、及「ベーリング」海ニ面スル露西亞領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權ヲ日本國民ニ供センガ爲メ日本國ト協定ヲ爲スヘキコトヲ約ス」、而シテ明治三十八年ヨリ四十年ニ亙リマシテ、許可制ニ依リマシテ此ノ北洋漁業ハ行ハレテ居ッタノデアリマス、明治四十年此ノ「ポーツマス」條約ニ基キマシテ、日露漁業協約ガ締結セラレテ、其ノ有効期限ハ十二箇年トシテ、大正六年滿了トナツタノデアリマス、然ルニ其ノ當時「ロシヤ」側ニ相手トスベキ政府ガ未ダ存在シテ居リマセヌデシタ爲ニ、大正七年、八年、九年、十年、十一年、此ノ期間ニ於キマシテハ、日本政府ハ所謂事務管理ノ形式ヲ以テ漁業ヲ繼續シテ居ッタノデアリマス、大正十二年ニ至リマシテ「ウラジオ」ニ赤衛軍ガ現レマシテ、是ト一箇年ノ暫定協約ヲ取極メマシテ、大正十三年モ同様ノ形式デ出漁ヲ致シテ居ッタノデアリマス、大正十四年ニ至リマシテ、日「ソ」基本條約ガ締結セラレマシタ、是レ所謂考澤「カラハン」條約又ハ北京條約ト稱スルモノデアリマス、此ノ第二條ニ「ポーツマス」條約ノ效力ヲ確認セシメタノデアリマス、而シテ漁業ハ依然同様ノ形式即チ許可制度ニ依ッ

テ遂行セラレテ居リマシタ、而シテ昭和三年日「ソ」漁業條約ガ締結セラル、ニ至ッタノデアリマス、此ノ昭和三年迄ノ北洋ニ於ケル日「ソ」間ノ漁業ノ數ノ比率ハ、一貫致シマシテ、日本側ガ優ニ八割以上、「ロシヤ」側、後ニ「ソ」聯邦側ガ二割以下ヲ繼續シテ居ッタノデアリマス、茲ニ特ニ注意ヲ要シマス事項ハ、明治四十年締結ノ日露漁業協約、昭和三年締結ノ日「ソ」漁業條約、此ノ何レモ其ノ主義ニ於キマシテ、其ノ待遇ハ日「ソ」人ノ間ニ同様ニスルト云フ主義ガ一貫シテ居ルノデアリマス、又我々ノ注意ヲ要スル點ハ、昭和三年締結ノ日「ソ」漁業條約デアリマス、此ノ時ヨリ「ソ」聯ノ國營企業ガ進出スルニ至リマシタ、而シテ同條約ニ依リマシテ二百萬「ブード」ハ競賣ニ付セズ、國營企業ノ漁區トシテ優先的ニ取得スルト云フコトデアリマス、此ノ二百萬「ブード」ノ漁區ト云フノハ、「二百萬「ブード」ヲ漁獲シ得ル漁區ト云フ意味デアリマス、又此ノ當時ヨリ「ソ」聯ニ於キマシテハ總テノ企業ガ國營デアアルニ拘ラズ、此ノ北洋漁業ニ於テノ多數ノ個人ノ企業ヲ容認致シマシテ、此ノ少數ノ「ソヴィエト」個人ト日本トノ間ニ漁業ノ競賣ヲスルト云フ規定ヲ致シタノデアリマス、然ルニ此ノ個人ト申シマスモノハ、總テガ「ソヴィエト」政府ノ傀儡デアリマスル爲ニ、如何ナル高キ競賣ニ對シ入札ヲ致シマシテモ、其ノ金ハ「ソヴィエト」國家ニ又還ツテ來ルノデアリマスルカラ、サウ云フ個人ト日本ノ企業家トガ競走スルト云フコトハ到底不可能ノコトデアアルノデアリマス、果セル哉昭和三年以降ハ彼我ノ比率ガ急ニ變更致シマシ

テ遂行セラレテ居リマシタ、而シテ昭和三年日「ソ」漁業條約ガ締結セラル、ニ至ッタノデアリマス、此ノ昭和三年迄ノ北洋ニ於ケル日「ソ」間ノ漁業ノ數ノ比率ハ、一貫致シマシテ、日本側ガ優ニ八割以上、「ロシヤ」側、後ニ「ソ」聯邦側ガ二割以下ヲ繼續シテ居ッタノデアリマス、茲ニ特ニ注意ヲ要シマス事項ハ、明治四十年締結ノ日露漁業協約、昭和三年締結ノ日「ソ」漁業條約、此ノ何レモ其ノ主義ニ於キマシテ、其ノ待遇ハ日「ソ」人ノ間ニ同様ニスルト云フ主義ガ一貫シテ居ルノデアリマス、又我々ノ注意ヲ要スル點ハ、昭和三年締結ノ日「ソ」漁業條約デアリマス、此ノ時ヨリ「ソ」聯ノ國營企業ガ進出スルニ至リマシタ、而シテ同條約ニ依リマシテ二百萬「ブード」ハ競賣ニ付セズ、國營企業ノ漁區トシテ優先的ニ取得スルト云フコトデアリマス、此ノ二百萬「ブード」ノ漁區ト云フノハ、「二百萬「ブード」ヲ漁獲シ得ル漁區ト云フ意味デアリマス、又此ノ當時ヨリ「ソ」聯ニ於キマシテハ總テノ企業ガ國營デアアルニ拘ラズ、此ノ北洋漁業ニ於テノ多數ノ個人ノ企業ヲ容認致シマシテ、此ノ少數ノ「ソヴィエト」個人ト日本トノ間ニ漁業ノ競賣ヲスルト云フ規定ヲ致シタノデアリマス、然ルニ此ノ個人ト申シマスモノハ、總テガ「ソヴィエト」政府ノ傀儡デアリマスル爲ニ、如何ナル高キ競賣ニ對シ入札ヲ致シマシテモ、其ノ金ハ「ソヴィエト」國家ニ又還ツテ來ルノデアリマスルカラ、サウ云フ個人ト日本ノ企業家トガ競走スルト云フコトハ到底不可能ノコトデアアルノデアリマス、果セル哉昭和三年以降ハ彼我ノ比率ガ急ニ變更致シマシ

テ、新條約實施後第一年、即チ昭和四年ニハ日本側ガ五五・一「パルセント」ノ聯側ガ四四・八「パルセント」ト云フヤウナ變化ヲ呈シテ來タノデアリマス、而シテ此ノ關係ハ逐年日本側ノ漁區遞減ノ一途ヲ辿ッテ參タノデアリマス、斯ウ云フ情勢デアリマシタカラ、昭和六年時ノ廣田駐「ソ」大使ト「ソ」聯政府トノ折衝ニ依リマシテ、昭和七年八月所謂廣田「カラハン」協定ガ成立致シマシタ、之ヲ安定漁區ト稱スルノデアリマス、此ノ協定ニ依リマシテ日本人ノ租借漁區ノ大部分ガ……二百八十二漁區デアリマス……日「ソ」漁業條約ノ滿了迄競賣ニ付セズ經營シ得ルト云フコトニナッタノデアリマス、即チ昭和七年ニ於キマシテハ日本ノ現有漁區三百九十二ノ中、既ニ安定セル漁區、即チ特別契約漁區、是ハ罐詰ヲ製造スル工場ヲ持ツタ漁區デアリマシテ、之ヲ特別契約漁區ト稱スルノデアリマス、是ガ四十四、及ビ五箇年間期限借受漁區ハ、合計五十二ヲ除キ、三百四十漁區ニ對シマシテ二百八十二漁區ガ條約期限内即チ向後五箇年間競賣ニ付スルコトナク事業ヲ繼續シ得ルト云フコトニナリマシテ、即チ現有漁區ノ約八割強ガ安定スルコトニナリマシタ爲ニ、年々紛争ヲ續ケテ來タ競賣問題モ稍、一時平靜ニ歸シタ感ガアツタノデアリマス、併シ此ノ廣田「カラハン」協定ニ注意スベキ點ハ、此ノ協定ニ於テ日本側ハ安定漁區ヲ得マシタニ對シマシテ、「ソ」聯側ハ三百萬「ブード」ノ國營漁區ヲ優先的ニ取得スルト云フコトヲ規定致シタノデアリマス、即チ日本側ノ安定漁區ト三百萬「ブード」ト云フモノガ、交換條件トシテ此ノ協定ノ中ニ記載セラレテ居ルノデアリマス、而シテ前ニ述ベマシタ

日「ソ」漁業條約ハ、昭和三年五月二十八日ニ效力ヲ發生致シマシテ、有効期間ガ八箇年デ、昭和十一年五月二十八日ヲ以テ滿了トナリマス、而シテ期限滿了ノ際、修正改訂ノ必要ナイ場合ニ於キマシテハ、同條約ハ其ノ儘引續キ十二箇年效力ヲ延長スルコトガ規定シテアルノデアリマス、然ルニ同條約ノ實施後日「ソ」雙方共ニ不都合ヲ感ジマシタ爲ニ、兩者會議ノ上改訂交渉ヲ行フコトニナリマシタ、此ノ交渉ハ種々ノ難關ガアリマシテ、期限内ニ決定ヲ見ルコトガ出來マセズデ、從テ同條約ハ昭和十一年末日迄延期シ、交渉ヲ解決セムト致シタノデアリマス、此ノ交渉ノ中樞ヲ流レテ居リマス所ノ主張ヲ檢討致シマスルト、日本側ハ漁業條約改訂ノ必要ガ、漁區ノ理由ナキ侵蝕迫害ヲ防止セムトスルニ對シマシテ、「ソ」聯側ハ日本人ノ所有漁區ヲ奪還セムトスル意圖ヲ示シマシテ、主張ハ根本的ニ對立シタノデアリマス、併シ其ノ後第一回暫定協定ガ成立シ、引續キ交渉ヲ續ケマシテ、其ノ結果ハ昭和十一年十月二日遂ニ妥協點ニ達シマシテ妥協案文ヲ得マシタ、即チ是ガ酒匂「ガスロブスキー」協定ト稱スルモノデアリマス、此ノ協定ハ日本側トシテハ必ズシモ満足シ得ルモノデハナカッタノデアリマスガ、互讓妥協ノ精神ニ依ッテ決定ヲ見タノデアリマス、而シテ昭和十一年十一月二十日ヲ期シ正式調印スルコトニナッテ居ッタノデアリマスガ、其ノ前日、即チ昭和十一年十一月十九日、突如「ソ」聯側ガ國內手續未了ト云フ口實ヲ以テ調印ヲ拒否致シマシテ、今日迄是ガ調印ニ至ラズ、今日紛糾ノ因ヲ成シタノデアリマス、是ハ當時「ソ」聯側ガ日本ト「ドイツ」トノ間ニ、防共協定ガ

締結セラレマシタコトヲ知リマシテ、之ヲ口實ト致シマシタコトハ明瞭ナル事實デアアルノデアリマス、而シテ日本ノ漁業權ヲ「ソ」聯側カラ侵蝕致シマスルニハ、安定漁區ト云フモノガ彼等ニ對シ如何ニ障礙デアアルカト云フコトハ、彼等モ能ク之ヲ承知シテ居リマス故ニ、改訂交渉ノ不成立ニ終リマシタ場合、安定漁區ヲ含メタ現行條約暫定延長ヲ三回モ繰返シテ居ルノデアリマス、昨年ノ暫定取極交渉ニ於キマシテ、今回ハ「ソ」聯側ハ從來ノ日本人ノ經營シテ居リマシタ漁區四十箇所ヲ、軍事上ノ理由ニ依リ閉鎖スル申シ來ッタノデアリマス、勿論此ノ閉鎖ヲ命ズル四十漁區ハ、日本人ノ漁區ノ中ノ最モ優秀ナルモノデアアルト云フコトハ申シ迄モナイノデアリマス、之ニ對シ我ガ國ヨリハ四十漁區ノ一部ニ付「ソ」聯側ノ要望ヲ考慮シマシテ、代漁區ヲ以テ我慢スルト云フ妥協案ヲ提出致シタノデアリマスルガ、是ハ「ソ」聯側ノ應ズル所トナラナカッタノデアリマス、而シテ昨年末「ソ」聯側ハ僅カ三漁區ノ閉鎖ヲ撤廢致シマシテ、六漁區ニ對シ代漁區ノ意味デ「ソ」聯側ノ漁區六十箇所ヲ競賣ニ出シマシテ讓步案ヲ提出シタト稱シテ居ルノデアリマス、併シ一度開設シマシタ漁區ヲ、斯クノ如キ理由ナキ理由ニ依リマシテ閉鎖スルト云フコトハ、明カニ漁業條約ノ規定ニ反スルノミナラズ、現實ニ漁業活動範圍ヲ狹メル結果デアリマシテ、明カニ不法デアアルノデアリマス、次ニ又昨年ノ暫定取極締結ノ條件ノ一ツトシマシテ、日本人ガ昭和七年廣田「カラハン」協定締結以來、引續キ經營シテ來テ居リマシタ所ノ所謂安定漁區ヲ、今年ハ總テ競賣ニ付スルト云フコトヲ主張シテ參ッタノデアリマス、此ノ安定漁區ハ二百七十

九箇所ヲ算シマシテ、邦人漁區ノ大部分ヲ占ムルモノデアリマス、「ソ」聯側ハ廣田「カラハン」協定ガ既ニ失効シタコト等ヲ其ノ主張ノ主ナル理由トシテ居ルノデアリマスルガ、元來廣田「カラハン」協定ハ漁業問題ニ於ケル日「ソ」間紛争ヲ解決スル爲、實情ニ即シタ方法トシテ締結セラレ、兩國國交關係ニモ寄與シタコトガ少クナイノデアリマス、而シテ右協定期間滿了後モ昭和十一年度、十二年度、兩度ノ暫定取極ニ際シマシテハ、右協定ニ依ル漁區ノ借區契約ガ其ノ儘延長サレテ居ッタノデアリマス、尙又右協定ノ中ニハ邦人漁區ノ安定ヲ認メル規定ト對立致シマシテ、前ニ申シマシタヤウニ「ソ」聯側ノ國營企業ノ爲、三百「ブード」ニ相當スル漁區ノ増加留ヲ規定シテ居ッタノデアリマス、デ此ノ兩者ガ相關聯致シテ居ッタ、サウデアリマスカラ邦人ガ此ノ安定漁區ヲ手放ス場合ニ於キマシテハ、「ソ」聯側ハ此ノ國營企業ノ三百萬「ブード」ヲ吐キ出サナケレバナライコトハ當然デアアルノデアリマス、然ルニ「ソ」聯側ハ既ニ日本人ノ安定漁區ヲ競賣ニ付スル旨公告致シマシタ、一方ニ於キマシテ國營企業ノ漁區其ノモノハ「ソヴィエト」側ノ勝手デアアルト云フ主張ヲ固執シテ居ルノデアリマス、暫定取極ニ於テ現狀維持ハ認メラレルコトノ當然ナコトハ申シ迄モアリマセス、又「ソ」聯側ノ主張スル競賣ナルモノハ、前ニ申シマシタ如ク「ソ」聯側ノ制度事情ニ於テ其ノ儘行ハル、モノデアリマスルカラ、漁區ノ全部ガ競賣ニ於テ「ソ」聯側ノ手ニ競落スルト云フコトハ又覺悟シナケレバナラスコトデアアルノデアリマス、斯カル競賣ノ提議ト云フモノハ甚ダシク不當、不法ヲ提議デアリマス、

又國營企業三百萬「ブード」ヲ經營スルコト
ガ勝手ダトノ議論ノ不當ナルコトハ申ス迄
モナイコトデアリマス、尙又暫定取極トハ
別ニ、本漁業條約交渉ハ依然繼續セラレ
建前デアリマス、前ニ申シマ
シタ如ク暫定取極締結ヲ困難ナラシメル提
議ヲ致シマシテ、漁業條約期間満了前ニ、
同條約ノ有效期間ヲ延長セシムベキ暫定取
極ノ成立ヲ不可能ナラシムルコトハ、實ニ
「ボーツマス」條約ノ規定、將又漁業條約ノ
規定ニモ反スル次第デアリコトハ申ス迄モ
ナイノデアリマス、昨年末日本側カラ「ソ」
聯ニ對シマシテ、今後ノ處置ハ如何ニスル心
構デアリカト云フコトヲ問ヒマシタ時ニ、
「ソ」聯ハ來年、即チ今年デアリマスガ、來
年ニ入ッテ交渉ヲ繼續スル用意ガアルト云フ
コトヲ答ヘテ居ルデアリマス、日本側ハ
此ノ言ヲ了承致シマシテ、本年ニ入ッテカラ
最短期間内ニ協定ガ成立スルコトヲ要望ス
ルト共ニ、此ノ交渉中ハ「ソ」聯側ハ現狀ヲ變
更スル如キ處置ヲ執ラヌモノト了解スル旨
ヲ昨年申入レテアルデアリマス、例年十
二月末ニ公示サレル競賣漁區ノ公示ハ行ヒ
マセズ、「ソ」聯側モ交渉繼續中現狀維持ヲ
守ツタモノト日本側ハ信ジテ居ルデアリ
マス、然ルニ本年一月三日西參事官「ミロー
ノフ」極東部長ノ會談ニ於キマシテ、突
如「ミローノフ」ハ近ク本年度ハ札漁區ノ公
示ヲ行フ豫定デアリト云フコトヲ申出タノ
デアリマス、デ日本側ハ「ソ」聯ノ一方的不法
行爲ヲ糾彈致シマシタガ、「ソ」聯側ハ更ニ
二月ニ競賣ヲ行フト言ヒナガラ、一月十五
日ニ至リマシテ「ソ」聯側ニ來ル三月十五日、
即チ明後日、極東漁業廳ニ於テ二百九十三
漁區ノ競賣ヲ行フ旨ヲ公示致シタノデアリ

マス、斯クノ如クシテ事態ハ急轉直下、現
狀ヲ呈スルニ至ツタノデアリマス、デ前ニ述
ベマシタ如ク本年「ソ」聯側ノ執ラムトスル
處置ハ、實ニ「ボーツマス」條約ヲ無視シ、日
「ソ」基本條約ヲ無視シ、日「ソ」漁業條約ヲ
無視シタ、實ニ暴戾極マル所爲デアリノデ
アリマス、此ノ漁業問題ト云フコトヲ他ノ
方面カラ見マスト云フト、今日ハ此ノ北洋
漁業問題ハ、北海道及東北ノ同胞ニ對シマ
シテハ、一年間ノ豫定サレタ年中行事ノ中
ノ重要ナルモノノ一ツデアリマス、北洋漁業
ニ從事スル者ハ一年二萬人ヲ下ラ
ナイノデアリマス、而シテ三四箇月ノ間北
洋ノ怒濤ト闘ヒマシテ、少クトモ三百圓
ノ金ヲ持ッテ歸ルデアリマス、或者ハ親子
孫迄モ、一家譽ッテ此ノ事業ニ從事スル者モ
アリマス、又多クハ一家ノ壯丁ガ夏季ノ間
激烈ナ勞働ニ服シマシテ、一家族ノ一年ノ
資ヲ作ルデアリマス、北洋漁業ハ實ニ彼
等ノ生活ノ中ニ深く喰入ツタ年中行事ノ一
ツデアリマス、若シ是ガ多少トモ
蹉跌ヲ來スヤウナコトガアリマスナラバ、
東北、北海道ニ多大ナル社會問題ヲ惹起ス
ベキ重大ナ性質ヲ帶ビ、單ナル營利事業「デ
ハナイノデアリマス、由來「スラヴ」民族ハ
朴訥粗野ノ性格ヲ有シ、又同時ニ眞理ノ探
究ニ邁進スル性格ヲ有シ、又藝術ノ天才ニ
ハ豐カニ恵マレタ國民デアリマス、
古キ「ロシア」ハ世界文化ノ爲ニ貢獻シタ跡
モ少クナイノデアリマス、先ヅ科學ノ方面
ヲ見マスト云フト、「メンデルレーフ」ノ元素
配列論ノ如キ、其ノ當時ニ於テ既ニ今日ノ
理論科學ノ眞髓ニ觸レテ居ルデアリマス、
近世ニ至リマシテハ「ハブロフ」ノ條件反射
論モ、生理學ノ上ニ新シイ光ヲ投ジテ居ル

ノデアリマス、其ノ他音樂、繪畫ニ對シテ
ハ此處ニ申スニ及ビマセズ、併シ文化方面
ニ於ケル「スラヴ」民族ノ最モ卓越シタル方面
ハ文學デアリト考ヘラレマス、「プシューキン」
「ツルゲネーフ」、「ドストエブスキー」、近
クハ「トルストイ」、「ゴルキー」ノ如キ、彼
等ノ思想ハ彼等ノ著書ヲ通シマシテ、日本
初メ各國ノ思想ノ上ニ影響シタ所ガ少クナ
イト考ヘルノデアリマス、併シ此ノ朴訥粗
野ナ性格ト一方非常ニ感傷的ナ性格ト、之
ニ加フルニ帝國「ロシア」ノ長イ間ノ惡政ノ
爲ニ、腐敗廢爛シテ居ツタ此ノ土壤ガ、恰モ
「レーニン」、「トロツキー」及多クノ「ユダヤ」
系ノ指導者ニ依リマシテ、同ジク「ユダヤ」
系ノ「マルクス」ノ唱道致シマシタ共產主義
ヲ植付クルノ都合ノ好イ溫床トナツタノ
デアリマス、西「ヨーロッパ」ノ所謂自由主
義、「デモクラシー」國家ニ於キマシテハ、
其ノ自由ナル思想ハ政治ノ範圍ニ止ッテ居
ルノデアリマス、彼等ハ各、各自ノ國家ノ歷
史、宗教ニ依リマシテ傳統的、遺傳的或ハ
無意識的ニ、思想上ノ強イ掣肘ヲ受ケテ居
リマスガ故ニ、彼等ノ思想ハ決シテ完全ニ
自由ニハ成リ得ナイノデアリマス、此ノ好例
ト致シマシテ佛國ノ文豪「アンドレ・ヂー
ド」ノ「ソ」聯ノ紀行及「ソ」聯紀行ノ再修正
ト云フ二冊ニ於テ明カナル如ク、是ハ「ヂー
ド」自身ガ、「ヂー」自身ノ自由主義ガ、無
意識ノ裡ニ矢張り強キ掣肘ヲ受ケテ居ツタ
云フコトヲ、自覺セザリシ所ノ不明ヲ物語
ルモノデアリトモ言ヒ得ルガラウト考ヘル
ノデアリマス、然ルニ「ソ」ヴィエト「國家ハ、
共產主義ヲ以テ政治ノ主義トナシタルト同
時ニ、之ヲ以テ亦道德、宗教ノ主義ト致シ
タノデアリマス、仍テ彼等ニハ其ノ主義遂

行ノ爲ニハ何等之ヲ遮ルモノモナイ、故ニ
彼等ノ國家ニハ我々ガ考ヘルヤウナ信義ノ
觀念ト云フヤウナモノハ存在致シマセズ、
又存在スル必要ヲ認メナイノデアリマス、
恰モ日本ガ今日支那ト事ヲ構ヘ、國內ノ物
心兩力ガ稍々衰退セルヤノ見當ヲ見誤リマシ
テ、又今回ノ不法行爲ヲ以テ國內人心離反
ヲ塗糊スル内政手段ニ之ヲ利用シ、他方ニ
於テハ支那及其ノ他諸國ニ對スル好意ノ
「ゼスチニア」ニ利用セムトシツ、アルコト
ハ「ユダヤ」系ノ政治家ノ工作トシテハ能ク窺
ヒ得ルノデアリマス、又此ノ思想ノ流ハ、
今日「ソ」ヴィエト「ノ内政ニ於キマシテハ、
主義遂行ノ爲、肅正ノ名ノ下ニ、權威者ハ
私利私慾ニ驅ラレマシテ、其ノ朋友同輩ノ
間ニ、所謂血ヲ以テ血ヲ洗フヤウナ殘忍ナ
ル政治ガ行ハレツ、アルノデアリマス、又
此ノ思想ノ流ガ他ニ對シマシテハ、今回ノ
漁業問題及北樺太ニ於ケル石油、石炭ノ權
益ニ對スル不法行爲トシテ現出シツ、アル
ノデアリマス、故ニ是ハ單ナル表面上ノ行
爲トシテノミ之ヲ見ルコトハ出來ナイノデ
アリマシテ、深キ思想上ノ根柢ヲ有スル問
題トシテ之ヲ取扱ハナケレバナラヌト考ヘ
ルノデアリマス、「ソ」聯ノ中心ヲ成ス「ユダ
ヤ」系ノ者ノ共產思想ニ依ル世界制覇、同
ジク「ユダヤ」系ノ金融業者ノ金融資本ニ依
ル世界制覇トハ、其ノ働ク場面コソ違ヒマ
スガ、又一抹ノ關聯ヲ見出シ得ルヤノ感ガ
致スノデアリマス、此ノ兩者ハ今世界ノ痛
デアリノデアリマス、斯ク觀ジ來リマスト
云フト、斯クノ如キ思想ハ假令隣邦デアッテ
モ、此ノ存在ヲ許スコトガ出來ナイノデア
リマス、「ソ」ヴィエト「政府ハ或ハ此ノ北洋
漁業問題ト云ヒ、又北樺太ニ於ケル石油石

炭ノ問題ト云ヒ、是ハ日本ノ邊境ニ於ケル問題デアリマシテ、日本ハ之ニ對シテ最後迄爭フヤウナ決心ハ持ツテ居ラナイノデハナイカトノ觀念ヲ持ツテ居ルカモ知レマセスガ、是ハ日本國民ノ性格ヲ理解セザル甚ダシキ誤謬デアルト考ヘルノデアリマス、日本國民ノ血ノ中ヲ流レテ居リマス最モ崇高ナル觀念デアル崇祖敬神ノ念ハ、又同時ニ其ノ祖先ニ對スル深キ責任感ヲ喚ビ起スモノデアリマス、北洋漁業權ト云ヒ、北樺太ノ石油、石炭ノ利權ト云ヒ、唯偶然ニ日本ノ領有ニ歸シタモノデハナイノデアリマス、是ハ我が祖先ノ數萬ノ尊キ、清キ血ヲ以テ、不十分ナガラ償ヒ得タル遺産デアアルノデアリマス、吾人ハ之ヲ守リ、之ヲ子孫ニ傳ヘル義務ヲ責任ヲ深ク感ズルノデアリマス、從テ之ガ爲ニハ我々ハ如何ナル犠牲ヲモ辭スルコトヲ許サレナイノデアリマス、此ノ結果ハ或ハ重大ナル事態ヲ招來スルコトガアルヤモ知レマセスガ、敢テ是ハ辭スル所デハナイノデアリマス、私ハ此ノ場合深ク「ソ」聯當局ノ深甚ナル猛省ヲ促シタイト考ヘルノデアリマス、北洋問題ハ單ナル經濟問題デハナイノデアリマス、是ハ重大ナル政治上、外交上、思想上ノ問題デアリマスト同時ニ、東北、北海道ニ對シマシテハ重大ナル社會問題デアアルノデアリマス、我々ハ之ニ對シテ最モ強キ決心ヲ持タムト考ヘル者デアリマス、之ニ對シテ政府ノ御所見ヲ承リタイト思ヒマス（拍手）

（國務大臣有田八郎君演壇ニ登ル）

○國務大臣（有田八郎君） 只今ノ井上子爵カラノ御質問ニ答辯致シマス、北洋ニ於ケル漁業權ノ本質、漁業條約交渉ノ經緯等ニ付キマシテ、又「ソ」聯邦ノ理不盡ナ態度等

ニ付キマシテハ、只今子爵ガ御述ニナク通リデアリマス、今回ノ交渉ハ昨年ノ秋カラ開始セラレマシテ、政府ハ今日迄冷靜ナル態度ト非常ナル忍耐ヲ以テ交渉ニ當ツテ來タノデアリマシテ、競賽ヲ明後日ニ控ヘテ居ル今日ニ於キマシテモ、政府ハ同様ノ態度ヲ以テマシテ問題ノ處理ニ當リ、交渉ヲ妥結ニ導クヤウニ最善ノ努力ヲ試ミツ、アル次第デアリマス、若シ「ソヴィエト」側ニ於キマシテ日本ノ此ノ道理アル要求ヲ無視致シマシテ、交渉ヲ妥結ニ至ラシメズ、殊ニ一方的ニ競賽ヲ斷行スル等、理不盡ナ態度ヲ執ルヤウナコトガアリマスレバ、是ヨリ生ズル結果ニ付キマシテハ「ソ」聯邦ニ於テ重大ナル責任ヲ執ルベキモノデアルト云フコトハ言フヲ俟タナイノデアリマス、萬一ノ場合ニ付キマシテハ政府トシテモ斷乎タル決意ヲ以テ、此ノ權益擁護ノ爲ニ、最モ有效ニシテ且適切ナル措置ヲ講ズル覺悟デアリマス（拍手）

○副議長（侯爵佐佐木行忠君） 日程第二、商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會、司法省政府委員

（議長伯爵松平賴壽君議長席ニ著ク）
〔左ノ提出文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

右 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十四年三月十日

內閣總理大臣 男爵平沼騏一郎

司法大臣兼 鹽野 季彦
逓信大臣 八田 嘉明
商工大臣兼 有田 八郎
拓務大臣 廣瀨 久忠
外務大臣 石渡莊太郎
厚生大臣 櫻内 幸雄
大藏大臣 櫻内 幸雄
農林大臣 幸雄

商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案

第一條 本法ハ商法ノ改正及有限會社法ノ制定ニ伴ヒ他ノ法律中從前ノ商法ノ規定ヲ準用スル條文等ノ整理ヲ行フヲ目的トシ各法律ノ配列ハ題名ヲ附セラ

ルモノニ付テハ「アイウエオ」順ニ依リ、題名ヲ附セラレザルモノニ付テハ制定ノ年次ニ依ル

第二條 家畜保險法中左ノ通改正ス

第三十三條 商法第六百三十八條、第六百三十七條、第六百三十八條第二項、第六百三十九條、第六百四十條、第六百四十三條乃至第六百四十六條、第六百四十九條第一項、第六百五十八條、第六百六十二條及第六百六十三條ノ規定ハ本法ニ依ル家畜保險ニ之ヲ準用ス

第四十七條第二項ヲ削リ同條ニ左ノ二項ヲ加フ

組合員ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ベタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限り又組合員ガ總會ニ出席セザル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會ノ招集ノ手續ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ理由トスルトキニ

限り前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得
商法第八十八條、第五百五條第三項、第九百九條及第二百五十條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 商法第六百三十六條、第六百四十三條、第六百五十八條、第六百六十二條及第六百六十三條ノ規定ハ本法ニ依ル家畜再保險ニ之ヲ準用ス

第三條 簡易生命保險法中左ノ通改正ス
第二十二條中「商法第三百九十九條及第四百二十九條」ヲ「商法第六百四十三條及第六百七十八條」ニ改ム

第三十四條第一項中「商法第三百九十九條、第四百一條、第四百六條、第四百十七條、第四百二十八條、第四百二十八條ノ四、第四百二十九條及第四百三十二條ノ二」ヲ「商法第六百四十三條、第六百四十七條、第六百五十二條、第六百六十三條、第六百七十四條、第六百七十七條、第六百七十八條及第六百八十二條」ニ、同條第二項中「商法第四百二十八條」ヲ「商法第六百七十四條」ニ、同條第三項中「商法第四百二十九條」ヲ「商法第六百七十八條」ニ改ム

第四條 北支那開發株式會社法中左ノ通改正ス

第十五條第三項中「商法第二百九十九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

第五條 漁船保險法中左ノ通改正ス
第二十八條第二項中「商法第三百八十六條乃至第三百九十五條、第三百九十七條、第三百九十九條乃至第四百條、第四百三條第一項、第四百十二條、第四百十三條、第四百十五條乃至第四百

十七條、第六百七十一條第一號乃至第三號、第六百七十二條第一項、第六百七十四條第一項第二項及第六百七十五條乃至第六百七十九條ヲ「商法第六百三十一條乃至第六百四十條、第六百四十二條乃至第六百四十六條、第六百四十九條第一項、第六百五十八條、第六百五十九條、第六百六十一條乃至第六百六十三條、第八百三十三條第一號乃至第三號、第八百三十四條第一項、第八百三十六條第一項第二項及第八百三十七條乃至第八百四十一條」ニ、同項但書中「第六百七十二條第一項」ヲ「第八百三十四條第一項」ニ、「第六百七十四條第一項」ヲ「第八百三十六條第一項」ニ改ム	有「限」會「社」ヲ加フ	第七百十條」ニ、同條第九號中「商法第五百六十四條」ヲ「商法第七百一十一條」ニ改ム	ヲ「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル
第三十四條第四項中「商法第四百十五條及第四百十六條」ヲ「商法第六百六十一條及第六百六十二條」ニ改ム	第八條 國家總動員法中左ノ通改正ス 第十二條中「商法第二百條」ヲ「商法第二百九十七條」ニ改メ「又ハ資本ノ増加」及「又ハ第二百十條」ヲ削ル	第十四條 船舶法中左ノ通改正ス 第一條第一項第三號中「株式會社」ノ下ニ「及ヒ有「限」會「社」」ヲ加フ	「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル
第三十六條中「商法第三百九十一條、第三百九十二條、第三百九十九條、第四百條、第四百十二條及第四百十七條」ヲ「商法第六百三十三條、第六百三十七條、第六百四十三條、第六百四十六條、第六百五十八條及第六百六十三條」ニ改ム	第九條 自動車製造事業法中左ノ通改正ス 第十條第一項中「商法第二百條」規定ニ依ル制限ヲ「商法ニ規定スル制限」ニ改ム	第十五條 臺灣拓殖株式會社法中左ノ通改正ス 第七條第二項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム	「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル
第六條 銀行法中左ノ通改正ス 第十五條中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第一百條第一項」ニ改ム	第十條 商業組合法中左ノ通改正ス 第三條ノ六第三項中「商法第三百八十三條ノ三」ヲ「商法第六百二十七條第二項及第六百二十八條」ニ改ム	第十六條 擔保附社債信託法中左ノ通改正ス 第十五條第一項中「商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第二百二十八條第二項又ハ第二百三十二條」ヲ「商法第二百二十二條、第二百三十二條第二項、第三百三十八條、第四百十七條第二項、第四百二十六條第二項、其ノ準用規定、有限會社法第七十二條第二項又ハ第七十四條第二項」ニ、同條第二項中「商法第二百二十八條第二項」ヲ「商法第四百二十六條第二項（同法第四百五十八條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）及有限會社法第七十四條第二項」ニ改ム	「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル
第十六條中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第一百條第一項但書」ニ、「商法第二百二十條ノ二但書」ヲ「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム	第十一條 商事非訟事件印紙法中左ノ通改正ス 第一條中「商法」ノ下ニ「及有「限」會「社」法」ヲ加フ	第十七條 帝國燃料興業株式會社法中左ノ通改正ス 第十三條第二項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム	「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル
第七條 航空法中左ノ通改正ス 第二條第三號中「株式會社」ノ下ニ「及有「限」會「社」」ヲ加フ	第十二條 人造石油製造事業法中左ノ通改正ス 第十二條第一項中「商法第二百條」規定ニ依ル制限ヲ「商法ニ規定スル制限」ニ改ム	第十八條 抵當證券法中左ノ通改正ス 第十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム	「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル
	第十三條 船員法中左ノ通改正ス 第五十五條第六號中「商法第五百六十一條」ヲ「商法第七百八十八條」ニ、同條第七號中「商法第五百六十二條第一項」ヲ「商法第七百九十九條第一項」ニ、同條第八號中「商法第五百六十三條」ヲ「商法第五百六十四條」ニ改ム	第十九條 手形法第十三條第一項ノ規定ハ前項ノ裏書ニ之ヲ準用ス尙其ノ裏書ニハ被裏書人ノ氏名又ハ商號、裏書人ノ住所及裏書ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス	「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル
	第十四條 船隻法中左ノ通改正ス 第五十五條第六號中「商法第五百六十一條」ヲ「商法第七百八十八條」ニ、同條第七號中「商法第五百六十二條第一項」ヲ「商法第七百九十九條第一項」ニ、同條第八號中「商法第五百六十三條」ヲ「商法第五百六十四條」ニ改ム	第二十條 第四十條中「商法第二百七十八條第二項、第二百七十九條、第三百八十一條、第四百三十七條、第四百三十八條、第四百四十條、第四百四十一條、第四百四十九條、第四百六十三條、第四百六十四條（第一項但書」ヲ	「商法第三百十七條」ニ改メ同項第一號中「第七號、」ヲ削ル

除ク〕第四百八十三條、第四百八十八條ノ四、第四百九十五條ヲ「商法第五百十六條第二項、第五百十七條第五百十八條、手形法第七條、第十五條第一項、第十六條乃至第十八條、第三十九條第一項、第五十條、第六十九條」ニ改ム

第十九條 電氣事業法中左ノ通改正ス
第十九條第一項中「商法第二百條ノ規定ニ依ル制限」ヲ「商法ニ規定スル制限」ニ改ム

第二十條 東北興業株式會社法中左ノ通改正ス

第二十一條 東洋拓殖株式會社法中左ノ通改正ス

第二十二條 取引所法中左ノ通改正ス

第二十三條 中支那振興株式會社法中左ノ通改正ス

第二十四條 日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第二十五條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十六條 日本產金振興株式會社法中左ノ通改正ス

第二十七條 日本製鐵株式會社法中左ノ通改正ス

第二十八條 農業倉庫業法中左ノ通改正ス

第二十九條 農業保險法中左ノ通改正ス

第三十條 農工銀行法中左ノ通改正ス

第三十一條 農工銀行法中左ノ通改正ス

第三十四條第二項中「商法第九十九條及第二百條ノ二」ヲ「商法第二百九十六條及第二百九十八條」ニ改ム

第三十五條ノ二第三項中「商號及商法第三百七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項」ヲ「商法第三百一一條第二項第一號及第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項並債務ノ番號」ニ、同條第四項中「商法第二百四條ノ三第一項」ヲ「商法第三百五條第一項」ニ、商法第七十三條第四號乃至第六號ヲ「商法第三百一一條第二項第三號乃至第五號」ニ改ム

第三十六條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第三十七條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第三十八條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第三十九條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十一條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十二條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十三條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十四條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十五條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十六條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十七條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第十四條ノ二第一項中「商法第九十九條及第二百條ノ二」ヲ「商法第二百九十六條及第二百九十八條」ニ改ム

第十五條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第十六條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第十七條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第十八條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第十九條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十一條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十二條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十三條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十四條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十五條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十六條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第二十七條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十五條第二項ヲ削リ同條ニ左ノ二項ヲ加フ
組合員ハ總會ニ於テ決議ニ對シ異議ヲ述ベタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ總會ニ出席スルコトヲ拒マレタルトキニ限り又組合員ガ總會ニ出席セザル場合ニ於テハ自己ニ對スル總會ノ招集ノ手續ガ法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ理由トスルトキニ限り前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十七條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十八條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第四十九條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十一條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十二條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十三條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十四條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十五條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十六條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十七條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

第五十八條 日本興業銀行法中左ノ通改正ス

改ム

第二十六條ノ三中「商法第二百三條第二項第一號乃至第三號」ヲ「商法第三百一條第二項第一號乃至第五號、第七號及第八號」ニ改ム

第三十一條 破産法中左ノ通改正ス

第二百七條中「商法第九十二條」ヲ「商法第二百六條」ニ改ム

第三十二條 北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第十二條第三項中「商法第九十九條及第二百條ノ二」ヲ「商法第二百九十六條及第二百九十八條」ニ改ム

第十二條ノ二第三項中「商號及商法第百七十三條第二號、第四號乃至第六號ニ掲ケタル事項」ヲ「商法第二百一條第二項第一號及第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項並ニ債券ノ番號」ニ、同條第四項中「商法第二百四條ノ三第一項」ヲ「商法第三百五條第一項」ニ、商法第七十三條第四號乃至第六號「ヲ」商法第二百一條第二項第三號乃至第五號「ニ」改ム

第三十三條 牧野法中左ノ通改正ス

第十二條ノ三中「商法第二百三條第二項第一號乃至第三號」ヲ「商法第三百一條第二項第一號乃至第五號、第七號及第八號」ニ改ム

第三十七條 大正十年法律第八十號中左ノ通改正ス

第三條 中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第二百六條第一項」ニ改ム

第四條 中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第二百六條第一項但書」ニ、商法第二百六條第一項但書「ニ」改ム

會ノ招集ノ手續方法令又ハ定款ノ規定ニ違反スルコトヲ理由トスルトキニ限り前項ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

商法第八十八條、第五百五條第三項、第九百九條及第二百五十條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 無盡業法中左ノ通改正ス

第二十一條ノ二中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第二百六條第一項」ニ改ム

第二十一條ノ三中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第二百六條第一項但書」ニ、商法第二百二十條ノ二但書「ヲ」

「商法第三百七十七條第一項但書」ニ改ム

第三十五條 硫酸アンモニア増産及配給統制法中左ノ通改正ス

第十九條第二項中「商法第二百九條」ヲ「商法第三百四十三條」ニ改ム

第三十六條 臨時資金調整法中左ノ通改正ス

第九條第一項中「商法第二百條ノ規定ニ依ル制限」ヲ「商法ニ規定スル制限」ニ改ム

第十五條 中「第五條」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ハ貯蓄債券ニハ之ヲ適用セズ

第三十七條 大正十年法律第八十號中左ノ通改正ス

第三條 中「商法第七十八條第二項」ヲ「商法第二百六條第一項」ニ改ム

第四條 中「商法第七十八條第二項但書」ヲ「商法第二百六條第一項但書」ニ、商法第二百六條第一項但書「ニ」改ム

第二百二十條ノ二但書「ヲ」商法第三百七十七條第一項但書「ニ」改ム

第三十八條 大正十四年法律第五十二號中左ノ通改正ス

第一項 中「株式會社」ノ下ニ「及有限會社」ヲ加フ

第三十九條 昭和七年法律第十六號中左ノ通改正ス

第一項 中「商法第二十六條第二項ノ規定」ヲ「商法第三十四條第一項及第二百八十五條ノ規定並ニ其ノ準用規定」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商法中改正法律施行法ニ依リ同法第一條ニ於テ謂フ舊法ヲ適用スベキ場合ニ付テハ從前ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

（政府委員倉元要一君演壇ニ登ル）

○政府委員（倉元要一君） 只今議題トナリマシタ商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、去ル第七十三回帝國議會ニ於テ御協賛ヲ得マシタ商法中改正法律及有限會社法ニ付キマシテハ、目下鋭意其ノ施行ノ準備ヲ進メテ居ル次第アリマスガ、他ノ法律中現行商法ノ規定ヲ引用シテ居リマス條文等ニ付キマシテ、ソレノ之ヲ改正法ノ規定ニ置換ヘル等、條文ノ整理ヲスル必要ガアルノデアリマス、本案ハ專ラ右ノ趣旨ヲ以テ第二條以下ニ掲ゲデアリマス

各法律ニ付必要已ムヲ得ザル限度ノ整理ヲ致サウトスルモノデアリマス、尙詳細ノ點ニ付キマシテハ他ノ機會ニ御説明ヲ申上ゲル積リデアリマスガ、何卒御審議ノ上、本

案ニ對シ速カニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望致ス次第デゴザイマス

○子爵戸澤正三君 只今議題トナリマシタ商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案ハ、關聯スル所ガアリマスルガ故ニ、人事調停法案外二件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長（伯爵松平賴壽君） 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君） 御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君） 此ノ際日程ノ順序ヲ變更致シマシテ日程第五ヨリ第九ニ移リタイト存ジマス、御異議ハゴザイマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君） 御異議ナイト認メマス

○議長（伯爵松平賴壽君） 日程第五、昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、日程第六、作業會計法中改正法律案、日程第七、兌換銀行券整理法中改正法律案、日程第八、農業再保險特別會計法案、日程第九、海軍工廠資金會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ五案ヲ一括シテ議題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○議長（伯爵松平賴壽君） 御異議ナイト認メマス、委員長高橋子爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長 子爵高橋 是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

作業會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長 子爵高橋 是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

兌換銀行券整理法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長 子爵高橋 是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

農業再保險特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長 子爵高橋 是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

海軍工廠資金會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十日

委員長 子爵高橋 是賢

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔子爵高橋是賢君演壇ニ登ル〕

○子爵高橋是賢君 只今議題トナリマシタル昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外四件ノ法律案ニ付キマシテ、特別委員會ノ審議ノ模様及其ノ結果ヲ御報告申上ゲタイト存ジマス、本特別委員會ハ去ル二月二十一日正副委員長ノ互選ヲ行ヒ、引續キ會議ヲ開キ、政府當局ヨリ各法案ニ付其ノ提出理由ノ説明ヲ聽取致シ、質疑ニ入りマシテ三月十日迄連日會議ヲ重ネ、大藏大臣ニ二回、農林大臣ニ一回ノ御出席ヲ煩ハシ、其ノ間或ハ速記ヲ止メ、或ハ秘密會ヲ要求致シテ、各法案ニ付キマシテ慎重審議ヲ遂ゲタノデゴザイマス、先ツ昭和十四年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ニ付テ申述ベマス、一般會計ニ於ケル昭和十四年度ノ歳入ハ前年度剩餘金ヲ充當シテ、尙八億九千九百餘萬圓ノ不足ヲ生ズルノデ、之ヲ補填スル爲ニ現行ノ公債法ニ依リ震災善後公債及道路公債ノ分ヲ差引キタル七億九千五百八十萬圓ノ公債發行ノ權能ヲ政府ニ與フルノデアリマス、此ノ法案ソレ自體ハ誠ニ簡單デアリマスガ、我が財政經濟ノ上ニ甚ダ重要ナル役割ヲ致シマスル問題デアリマスルノデ、之ガ審議ニ際シマシテハ、委員諸君ヨリ種々ナル方面ノ參考資料ヲ御要求ガアリ、ソレニ依ッテ色々ノ觀點カラ、有ラユル角度カラ考察シテノ頗ル多岐ニ互ル質疑應答ガ行ハレタノデアリマス、是ハ要スルニ近年國債ガ激増シ、又將來ニ於テモ累増ノ傾向アル所ノ此ノ公債ノ消化ハドウデアラウカト云フコトヲ心配サル、爲ニ、頗ル眞摯且熱心ナル質問ガ爲サレタノデアリマス、是ハ昭和十四年度總豫算ニ並行シテ議サ

ベキモノト思ッテ居リマスガ、總豫算ハ既ニ貴衆兩院ニ於テ論議ヲ盡サレ、既ニ可決ト相成ツタ次第デアリマスルノデ、極ク簡單ニ本委員會ニ於ケル質問應答ノ模様ヲ申上ゲテ、詳細ハ速記録ニ依ッテ御承知ヲ願フコトト致シマス、質疑ニ大體ヲ申上ゲマスレバ、先ヅ金利問題、高利債借替問題、國債ノ民衆化問題、公債發行ノ方法及物價問題等デゴザイマシタ、政府ハ低金利ノ徹底ヲ意圖セラレルガ、其ノ目標ハ何處ニ置カレルカ、又中央ト地方トノ金利ノ平準、及ビ不均衡ヲ是正スル御考ハナイカト云フ御質問ニ對シマシテ、政府ハ金利ノ目標ハ先ヅ三分五厘ヲ基準トシテ居ル、又中央ニ於ケル金利ト地方ニ於ケルモノトハ必ズシモ一樣ニハ考ヘテ居ラスガ、成ルベク金利ノ水準ノ幅ヲ狹バメテ、餘リ多クノ開キノナイヤウニ、各地金融業者及銀行業者等ノ間ニ懇談會ヲ設ケテ、適當ニ協議セシムルヤウ指導ヲシテ居ル次第デアリト云フ御答辯デアリマシタ、次ニ高利公債問題、一委員ヨリ現在スル高利公債ヲ低利ニ借替ヘル時ハ、其ノ利拂ニ於テ幾分ナリトモ一般會計ノ不足ヲ補フコトニナルト思フガ、政府ハ其ノ考アリヤト云フ問ニ對シマシテ、政府ハ高利公債ノ整理ハ成ルベク早イ機會ニ於テスルコトハ勿論望ム所デアリガ、何分ニモ一方ニ於テ巨額ノ公債ヲ次々ニ發行シツ、アル今日ノ情勢ニ於キマシテハ、其ノ時期ニ非ズト考ヘテ居ルト云フ御答デアリマシタ、第三ニハ國債ノ民衆化問題デアリマス、委員諸君ヨリ、政府ノ公債ヲ一般國民ニ廣ク持タシムルヤウニシテハドウデアラウカ、サウ云フ御考ハナイカト云フコトヲ、「アメリカ」或ハ佛國ノ例ヲ舉ゲテ御尋ガアッタノデアリマ

スガ、之ニ對シテ政府ハ公債ノ消化ニ付テハ、銳意努力ヲ爲シ、成ルベク廣ク個人ニモ持タセルヤウニ各方面ニ向ッテ勸誘モシ、又郵便局窓口ヨリ公債ノ賣出ヲ行ッテ居ルノデアリ、第四ニハ公債發行ノ方法ニ付テノ御質問デアリマシタ、委員諸君ヨリ熱心ナル質問ガアリマシテ、即チ從來政府ガヤッテ居ラル、國債發行ノ方法ト云フモノハ、何トナク手緩イヤウニ思ハレル、政府ハモット積極的ニ公債募集ヲ大衆化スル爲ニ、各方面ニ互リ専門家即チ銀行業者或ハ證券業者ト云フヤウナモノヲ動員シテ、廣ク公債ノ頒布ヲ圖ル考ハナイカト云フ御質問デアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ國債ノ消化ニ關シテハ極力意ヲ注イデ出來ルダケ個人々々ニ直接所有セシムルヤウ努力致シ、郵便局窓口ノ賣出等モヤッテ居ル、又一面ニハ貯蓄ノ獎勵ヲ爲シテ居ルガ、何分ニモ我が國民ノ現狀ニ於テハ、「フランス」ヤ「アメリカ」ノヤウニ、進ンデ自ラ公債ニ應募スルト云フ習慣ガ養ハレテ居ラスカラ、直接大衆ニ持タセルコトハナカク、容易ナ業デアナイ、併シナガラ一面ニ於テ郵便貯金其ノ他貯蓄銀行等ノ夥シキ預金ノ増加ヲ示シテ居ルガ、其ノ大部分ハ預金部ヲ通ジテ公債ノ消化ニ向ケラレテ居ルノデアリカラ、國民個々ノ公債所有ハ少額デアリ、又其ノ人員モ少數デアリガ、結局預金部ヲ通ジテ民衆ガ國債ヲ所有シテ居ル形トナッテ居ルノデアリ、併シナガラ公債頒布ノ理想即チ大衆ニ直接所有セシムルヤウニスルト云フ爲ニハ、其ノ方法手段等ニ付テ色々考ヘラルベキコトガマダ殘ッテ居ルト思フカラ、尙十分研究ヲシテ、出來得ルモノハ實行ニ移シタイト考ヘテ居ルトノ答辯デアリマシタ、尙之ニ關聯致シ

マシテ、公債ノ發行手續問題等ニ付、二三質疑應答ガアリマシタガ、是ハ省略致シマス、最後ニハ物價問題デアリマス、物價問題ニ付テ委員諸君ヨリ國債ノ累増ニ依リ紙幣ノ發行ノ増加ハ免レヌコト思フガ、從テ此ノ紙幣ノ急激ナル膨脹ハ總テ物價ノ騰貴ヲ誘發スルと思フガ、政府ノ所見如何ト質サレタノデアリマス、之ニ對シテ大藏大臣ハ、戰時經濟ノ膨脹ノ結果、國債ノ發行額ガ累増スレバ、ソレニ連レテ紙幣ガ増シテ來ル、從テ物價ノ騰貴ヲ促スト云フコトハ誠ニ免レザル現象デアルガ、茲ニ於テカ政府ハ種々方法ヲ講ジテ公債ガダブ付カヌヤウニ其ノ消化ニ努力シテ居ルノデ、今日ノ所デハ公債ノ消化ハ順調デアル、從テ紙幣増加ノ方面ヨリ來ル所ノ物價騰貴ハマダ起ツテ來テ居ラヌト考ヘテ居ル、併シナガラ他面ニ於テ物資供給ノ關係カラ招來スル所ノ物價騰貴ニ對シテハ、商工省ニ於テ或ハ中央物價委員會ニ於テ種々ナル對策ヲ考究シテ、出來ルダケ之ヲ抑制スルノ對策ヲ講ジテ居ル次第デアル、即チ物品ノ思惑ヲ抑制シ、又金融方面ヨリモ是等ノ思惑ノ爲ノ融資ヲスルコトヲ制限スル等ノ手段ヲ執ツテ居ル、又現今ノ戰時財政ニ於テハ勢ヒ紙幣ノ増加シ來ルコトハ免レヌノデ、之ガ爲ニ物價ノ騰貴ヲ來サユウナコトガアッテハ、戰時經濟全般ノ運用ニモ支障ヲ來スコトト思フカラ、政府ハ一面ニ於テ増稅ヲナシ、他面ニ於テハ貯蓄ノ獎勵ヲシテ、努メテ購買力ノ削減ヲバ圖ツテ居ル次第デアルトノ答辯デゴザイマシタ、次ニ作業會計法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、是ハ海軍火藥廠ノ運轉資金ガ現在二百萬圓トナッテ居ルノヲ、近年同作業所ニ於ケル製造施設

ノ擴張ニ伴ヒ、事業ノ分量モ著シク増大シテ來マシタノデ、從來ノ運轉資本デハ作業遂行上多大ノ困難ヲ來シマス、依リ、此ノ際前述ノ法定額ヲ四百萬圓ニ増額セムトスルノデアリマス、右ニ關シテハ一二ノ質問應答ガアリマシタガ、政府ノ説明ヲ諒トサレマシタ、次ニ兌換銀行券整理法中改正法律案ニ付テ申上ゲマス、是ハ昭和二年ニ制定サレマシタル法律ニ依リマシテ、明治十八年頃カラ發行ニ係ル所ノ古い紙幣ヲ整理致シ、本年三月末日ヲ以テ一應整理ガ完了スルコトトナッテ居リマシテ、其ノ結果約四千萬圓餘ノ利得ニナリマスルガ、是ハ悉ク國債償還ノ基金ニ充當スルコトニ定メラレテ居リマスルガ、政府ハ我が財政ノ現狀ニ鑑ミ右ノ繰入ヲ廢止致シマシテ、之ヲ一般會計歳出ノ財源ニ使用スルコトヲ適當ト認メテ、本法案ヲ提出シタトノ御説明デアリマシタ、委員ヨリ二三質問ノ末、政府ノ説明ヲ諒ト致シマシタ、次ニハ農業再保險特別會計法案ニ付テ御報告申上ゲマス、本法案ハ昭和十三年四月公布セラレマシタル農業保險法ニ依リマスレバ、農業保險組合聯合會及政府ハ農業保險ノ再保險事業ヲ行フコトトナッテ居ルノデアリマス、即チ農業保險組合聯合會ハ農業保險組合ノ經營スル農業災害ニ付テ、元受保險ニ對シテ歩合再保險ヲ行ヒ、政府ハ其ノ組合聯合會ノ經營スル再保險中、異常災害ニ對スル部分ニ付更ニ再保險ヲ爲スコトトナッテ居ルノデアリマス、本事業ニ關スル政府ノ歲入歲出ハ、他ノ政府經營ノ保險事業ト同様ニ之ヲ一般會計ヨリ切放シ、特別會計ヲ設置シテ經理スルノヲ最モ適當ト認ムルノデアルト云フ御説明デアリマシタ、此ノ法案ハ普通ノ保險トハ違ッタ

形ヲ取ツテ居リマスルノデ、多數ノ委員諸君ヨリ其ノ内容ニ關スル多クノ質問應答ガ行ハレタノデアリマスルガ、之ガ詳細ヲ申述ベマスルコトハ頗ル込込入ッテ居リ且時間モ掛カルコトト思ヒマスルノデ、此處ニハ各委員諸君ノ質疑應答ヲ綜合的ニ且極メテ要約致シマシテ御報告申上ゲ、詳細ハ速記録ニ依ッテ御了承ヲ願フコトト致シタイト存ジマス、先ヅ保險金及保險料率ニ付テノ質問ガゴザイマシタ、政府ハ保險金ハ地方ト作物トニ依ッテ異ルガ、米ニ付テハ一段當リ平均二十圓、桑ニ付テモ二十圓、又麥ニ付テハ十圓トナッテ居ル、地域ニ依ッテハ最高水稻ニハ四十圓迄ヲ認ムルノデアアル、サウシテ聯合會ハ其ノ七割ヲ再保險スルト云フコトニナル、尙小作ノ場合ニハ地主ト小作ト半々ト相成ル譯デアアル、又保險料率ハ平均三・七八「パーセント」デアリマシテ、其ノ内組合聯合會ガ二・三「パーセント」、政府ガ一・四七「パーセント」ヲ取ルコトニナッテ居ル、委員ヨリ保險組合ト保險聯合會ト政府ト、此ノ三段ニナッテ居ルガ、其ノ各ノ危險率ノ分擔ハドウ云フ風ニナルノカ、又ソレ等ノ計算ノ基礎ハ何處ニアルノカト云フ御質問ニ對シマシテ、政府ハ、本法案ニ依ル事業ノ目的ハ、農家が當然得ベカリシ收穫ヲ、或災害ノ爲ニ一部又ハ全部ヲ失フタ時ニ、農家ガ現金支出シタモノ、即チ種代デアルトカ、或ハ肥料代デアルト云フヤウナモノヲ填補救済スル程度ノ目標ヲ置イテアルノデアアル、デソレハ過去十七年間ニ亙ル各地域ノ災害ヲ統計的ニ積算ヲ致シテ、其ノ結果ヲ十七箇年ニ除シタル平均ノ被害率ヲ算出致シ、之ニ偏差ト申シマスルカ、即チ或安全率ヲ加算シタルモノヲ、

其ノ地域ノ普通被害率ト致シマシテ、其ノ被リタル所ノ災害ガ此ノ率ヲ超エザルモノハ普通災害ト致シテ、全部組合聯合會ニ於テ支辨スルコトト致シ、若シ資金等ノ不足ガアツタ場合ニハ聯合會ノ責任ニ於テ他ヨリ借入レテ處辨ヲセシメルノデアアル、其ノ率ヲ超エタ所ノ大災害ガ發生シタル時ニ初メテ政府ガ發動シテ、本法ノ特別會計ヨリ普通災害率ヲ超エタル部分ニ付支拂ヲ爲スコトトナルノデアルト云フ御答辯デアリマシタ、尙政府ハ初年度ニ於テハ百四十一組合ヲ作り、次ニ四十七組合ヲ加ヘルト云フ風ニシマシテ、先ヅ五箇年位シタナラバ四千町歩ノ保險ガ出來、大體自立ノ經營ガ出來ルコトト思フ、ソレ迄ハ附加保險料ニ相當スルモノヲ一般會計カラ補助ヲスル建前ニナッテ居ルノダト云フコトデアリマシタ、又特ニ農林大臣ノ御出席ヲ要求致シマシテ、保險政策問題ニ付テ質問ガゴザイマシタ、ソレハ政府ニ於テ色々官營保險ヲ爲サツテ居レルガ、又本議會ニモ保險法案ガ新ラシク出ルヤウデアアルガ、是ハ各省ガ別々ニ經營ヲサレテ、其ノ監督ハ又商工省ガヤッテ居ラル、ト云フ工合ニ區々ニナッテ居ルヤウデアアルガ、今迄ノ所ハ是デ宜シイデアリマセウガ、保險業モモウ段々成績ヲ擧ゲ發展ヲシテ來ルニ依ッテ、之ヲ一ツノ機構ノ下ニ、即チ保險省トカ、保險院トカト云フヤウナモノノ下ニ統括シテ、ソコヘ總テノ専門家ヲ集メテ、各部門ノ保險行政ヲ掌ラシメルト云フコトニシタナラバ、事務上ニモ非常ニ便宜デモアリ、調査ニモ便宜デアリ、又國ノ費用モ幾分節約セラル、コトト思フノデアアルガ、政府ノ御考ハドウカト云フ質問ニ對シ、農林大臣ハ此ノ事ニ關シテハ數年

前ヨリ考慮ヲシテ居リ、折角調査ヲ進メタ
ノデアルガ、是ガ中絶致シテ居ッテ、マ
ダ十分ナ調査ガ出來テ居リマセヌノ
デ、從ツテ結論ニ到達スル迄ニ至ツテハ居リ
マセヌ、併シ今回モ此ノ方面ノ調査ハ極力
進メテ居リマスノデ、諸般ノ調査ガ完了
シタル上ニ於テ如何ニ統制スベキヤ、如何
ニ取扱フタラ宜シイカト云フコトニ付テ篤ト
考慮ヲ遂ゲタイト云フ御答辯デアリマシタ、
最後ニ海軍工廠資金會計法中改正法律案、
之ニ付テ申上ゲマス、本改正案ハ海軍工廠
資金ノ現在ノ法定額ハ二千萬圓デアリマシ
テ、昭和八年ニ臨時補足金トシテ二千萬圓、
合計五千萬圓トナツテ居リマスガ、此ノ臨
時補足金トシテ受ケタ所ノ三千萬圓ハ殆ド
目下固定シテ居リ状態デアリマスノデ、
實際運用資金ト致シマシテハ、固有ノ二千
萬圓デアリマスガ、段々ト工廠ノ事業ガ
増大致シマシテ、法定ノ資金ダケハ到底
遂行シ得ザル次第トナツタ爲ニ、今回三千萬
圓ノ増額ヲ必要トスルト云フ御説明ガアリ
マシタ、二三ノ委員カラ資金ノ回轉數、或
ハ二千萬圓ヲ限度トシテ臨時軍事費カラ物
品ヲ振替ヘル件ナドニ付テ質疑應答ガ行ハ
レマシタガ、是等ハ速記録ヲ御覽ヲ願フコ
トト致シマス、大體以上申述べマシタヤウ
ナ質問應答ヲ終リマシテ討論ニ入りマシタ、
一委員ヨリ、戰時財政ノ下ニ於キマシテハ、
公債ノ増發ハ誠ニ已ムヲ得ヌコトと思ヒマ
スガ、唯我々ノ心配スル所ハ是等多額ノ
公債ガ、果シテ國民貯蓄ノ増加ト均衡ヲ保
テ行クカドウカ、即チ順調ニ且、大シタル
無理ガナク消化シテ行クカドウカト云フ點
デアリマス、併シナガラ此ノ委員會ニ於テ
政府カラ示サレタル數字ヲ見、又當局大臣

ヨリノ詳細ナル御説明ニ依リマシテ、我々
ハ左程心配セヌデモ宜イト云フコトガ稍、明
瞭トナリマシテ、誠ニ心強ク感ズル次第デ
アリマス、併シナガラ公債ノ大衆化ニ付テ
ハ、政府ハ國債發行ノ方法手段等ニ關シテ
篤ト御考慮ヲ願ヒ、將來一層ノ御努力ヲ拂
ハレムコトヲ希望スルト云フ希望ヲ述べラ
レマシテ、此ノ五法案ニ對シ贊成ノ御意見
ノ開陳ガゴザイマシタ、採決ニ入りマシタ
處、全會一致ヲ以テマシテ、昭和十四年度
一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ
關スル法律案外四件ハ可決ト相成リマシタ、
誠ニ御聴取ニクカッタコトト存ジマスガ、私
ノ御報告ハ之ヲ以テ終リマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナ
ケレバ五案ノ採決ヲ致シマス、五案ノ第二讀
會ヲ開クコトニ御異議ガゴザイマセヌカ
【異議ナシ】ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第二讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ガゴザイマセヌカ
【異議ナシ】ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 五案ノ第二讀會
ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題
ニ供シマス、五案全部、委員長ノ報告通り
デ御異議ガゴザイマセヌカ
【異議ナシ】ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ各案ノ第三讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ガゴザイマセヌカ
【異議ナシ】ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 五案ノ第三讀會
ヲ開キマス、五案全部、第二讀會ノ決議通
リデ御異議ガゴザイマセヌカ
【異議ナシ】ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 御諮リヲ致シマ
ス、日程ヲ變更致シマシテ、第三第四順
次議題ト致シタイト存ジマス、御異議ガゴ
ザイマセヌカ
【異議ナシ】ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認
メマス、日程第三、臨時資金調整法中改正
法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、
石渡大藏大臣

臨時資金調整法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十四年三月十一日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平賴壽殿
臨時資金調整法中改正法律案
臨時資金調整法中左ノ通改正ス

第四條第二項第二號ヲ削リ第三號ヲ第一
號トス

第四條ノ二 命令ノ定ムル限度ヲ超ユル
事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サ
ントスル者ハ之ニ付政府ノ許可ヲ受ク
ベシ但シ命令ノ定ムル者及左ノ各號ノ
一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限
ニ在ラズ

一 金融機關ヨリノ借入金
二 他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ
爲サシメタル社債ノ收入金
三 本法ニ依リ設立又ハ資本増加ニ付
認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回
拂込株金又ハ出資金
四 本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可
又ハ認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ拂
込株金又ハ社債收入金

第五條中「第二條」ノ下ニ「第四條」ヲ加
フ

第六條第一項中「五億圓」ヲ「十億圓」ニ改
メ同條第四項ヲ左ノ如ク改ム

政府ハ日本興業銀行ノ發行スル債券ニ
付命令ノ定ムル所ニ依リ額面金額十億
圓ヲ限リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂
ヲ保證スルコトヲ得

第十二條中「第四條」ノ下ニ「第四條」
ニ「ヲ加フ

第十三條中「二億圓」ヲ「五億圓」ニ改ム

第十六條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ
關スル事項

第十六條ノ二 政府ハ第四條ノ二ノ規定
ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四
條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ
規定ニ依リ認可若ハ許可ニ附シタル條

件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第十七條第二號中「設備ノ新設、擴張若ハ改良」ヲ削リ同條ニ左ノ一號ヲ加フ

三 第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣石渡莊太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(石渡莊太郎君) 只今議題トナリマシタ臨時資金調整法中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、現下ノ情勢ニ鑑ミ、軍備ノ充實、經濟建設ヲ必要トスルノデアリマスガ、之ガ爲ニ多額ノ物資ト資金トヲ要スルモノト豫想致サレマスノデ、此ノ際國內ノ物資ト資金ヲ更ニ此ノ目的ニ向ッテ集中スル必要ガアルト存ジマス、之ガ爲事業設備ノ新設擴張又ハ改良ニ關シマシテ、許可ヲ受ケベキモノノ範圍ヲ擴張シマシテ、個人、會社以外ノ法人ニモ及スコト致シタイト考ヘルノデアリマス、又生産力擴充等、時局ニ緊要ナル産業資金ノ需要増加ノ趨勢ニ對處スル爲、公債財源ノ發行限度並ニ其ノ元利金ノ支拂ニ付、政府ニ於テ保證シ得ル限度ヲ、ソレト五億圓ヨリ十億圓ニ擴張シ、又政府撤布資金ノ吸收ヲ圖ル爲、貯蓄債券ノ發行限度ニ億圓ヲ五億圓ニ擴張スル等ノ改正ヲ加ヘマシテ、本法制定ノ效果ヲ更ニ一層擴充致シタイト考ヘ、茲ニ本法法律案ヲ提出致シタ次第ゴザイマス、何

卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今上程セラレマシタ臨時資金調整法中改正法律案ハ、關聯スル所ガゴザイマスルガ故ニ、昭和十四年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外二件ノ特別委員ニ併託セラレムコトノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 贊成
○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ガナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第四、産金法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、石渡大藏大臣

産金法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十四年三月十一日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

産金法中改正法律案

産金法中左ノ通改正ス

第十一條ノ二 政府ハ必要アリト認ムルトキハ左ニ掲グル物ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

一 金地金

二 金ノ合金ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ

三 金ヲ主タル材料トスル物ニシテ命令ノ定ムル種類ノモノ
政府ハ必要アリト認ムルトキハ金貨幣ヲ所有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ガ處分ニ關シ禁止若ハ制限ヲ爲シ又ハ之ヲ鑄造シ依リテ得タル金地金ヲ政府若ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十一條ノ三 前條ノ規定ニ依リテ政府ノ爲ス金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ買入ハ金資金ノ運用ニ屬スルモノトス

第十一條ノ四 第十一條ノ二ノ規定ニ依リ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ金地金ニ在リテハ其ノ物ノ中ニ含マル金ノ純量ニ付第一條第一項ノ規定ニ依リ政府ガ金地金ヲ買上グル場合ノ買上價格ニ依リ算出シタル金額トシ金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ニ在リテハ金委員會ノ定ムル所ニ依ル

第十一條ノ五 第十一條ノ二第一項第三號ノ規定ニ依リ金ヲ主タル材料トスル物ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ物ガ美術品骨董品工藝品其ノ他ノ物ニシテ鑄造スルコトヲ適當トセザルモノナルトキハ其ノ物ヲ所有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケ之ヲ賣却セザルコトヲ得

第十四條中「又ハ第十一條」ヲ「第十一條又ハ第十一條ノ二」ニ改ム

第十九條中「當該金地金」ノ下ニ「金ノ合

金、金ヲ主タル材料トスル物」ヲ加ヘ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

五 第十一條ノ二ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者
六 第十一條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ賣却セザル者

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
外國爲替管理法第四條第一項第一號中「金地金」ヲ削リ同法第五條第二項中「金地金」ヲ「外國通貨」ニ改ム

〔國務大臣石渡莊太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(石渡莊太郎君) 只今議題トナリマシタ産金法中改正法律案ニ付テ提出ノ理由ヲ説明致シマス、金ノ集中ヲ圖リ、以テ本邦ノ對外決濟力ノ充實ニ資シマスルゴトハ、我が國現下ノ國際收支ノ狀況ニ顧ミ極メテ必要デアアルト存ジマス、去ル七十一議會ニ於テ協賛ヲ得マシタ産金法ノ施行以來、諸般ノ施設ヲ講ジマシテ、極力産金ノ増加ヲ圖ルト共ニ、或ハ金使用規則ヲ制定シ、國內ニ於ケル金ノ消費節減ヲ圖リ、或ハ國民ノ協力ヲ得マシテ、民間所在金ノ集中ニ努メテ參ツタノデアリマスガ、今後ニ於ケル時局ノ推移ニ顧ミマスレバ、此ノ際民間所在金ノ集中ハ更ニ之ヲ徹底スルノ必要ガアルト考ヘルノデゴザイマス、勿論民間所在金ノ集中ハ一ニ國民ノ愛國心ノ發露ニ俟ツモノデアリマスルガ、之ガ徹底ヲ期スル爲ニハ、必要ナル場合、金地金ハ勿論、金ヲ主タル材料トスル物等ヲ所有スル者ニ對シマシテ、之ガ處分ニ付テ禁止、制限又ハ之ヲ政府若シハ日本銀行其ノ他政府ノ

指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジ得ル旨ノ法制ヲ整ヘテ置クコトガ必要ナルト考ヘマシテ、本法律案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ産金法中改正法律案ハ、重要ナル法案デアリマスガ故ニ、此ノ特別委員ノ數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(「丸龜書記官朗讀」)

産金法中改正法律案特別委員

公爵徳川 圀順君 侯爵小村 捷治君
伯爵副島 道正君 子爵井上匡四郎君
子爵大河内正敏君 子爵大河内輝耕君
三井清一郎君 岡 喜七郎君
男爵赤松 範一君 男爵橋元 正輝君
男爵水谷川忠麿君 土方 久徴君
内藤 久寛君 金子元三郎君
長野 忠次君 松本勝太郎君
金岡又左衛門君 大西虎之介君

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十、名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長後藤伯爵

名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月九日

委員長 伯爵後藤 一藏
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

(伯爵後藤一藏君演壇ニ登ル)

○伯爵後藤一藏君 只今議題ト相成リマシタ名古屋帝國大學創設ニ伴フ帝國大學特別會計及官立大學特別會計ノ關涉ニ關スル法律案ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本法案ハ、昭和十四年度カラ名古屋帝國大學ガ創設セラレマシテ、醫學部、理工學部ノ二學部ヲ置キ、醫學部ハ現在ノ名古屋醫科大學ヲ移替致ス關係上、官立大學特別會計ニ包含サレテ居リマスル名古屋醫科大學ニ屬スル資金等ヲ帝國大學特別會計ニ移スト云フノガ其ノ内容デゴザイマス、特別委員會ハ三回開催致シ、第一回ノ委員會ニ於テ、政府ヨリ内容及提案理由ノ説明ガゴザイマシタガ、是ハ省略致シ質疑ノ二ニヲ申上ゲタイト存ジマス、名古屋帝國大學創設後ノ歳入歳出豫算ハ如何トノ間ニ對シマシテ、文部省所管ニ於テ創設費、主トシテ設備費四百萬圓、大藏省所管ニ於テ營繕費五百萬圓、合計九百萬圓デアッテ、昭和十四年乃至十九年度ニ於テ完成スルノデアアルガ、此ノ金額ハ地元ニ於テ寄附スルトノ答デゴザイマシタ、此ノ名古屋帝國大學創設ノ爲、地元カラ九百萬圓ヲ寄附スルガ如キコトハ、學校ノ創設ヲ希望スル地方カラ資金ヲ寄附スル競争運動等ノ弊ヲ生ジハセヌ

カト云フ間ニ對シマシテ、何分國費多端ナル折柄デアルノデ、同ジ狀態デアルト、勢ヒ地元ノ寄附金ガ相當アル所ニ、此ノ種ノ學校ガ創設サレルト云フヤウナ傾向ガナイデモナイガ、政府トシテハ、寄附金ノ高ニ依テ創設ノ場所ヲ考ヘルト云フノデハナ

イ、或一定ノ方針ノ下ニ學校ヲ創設スル場所ヲ考ヘテ、其ノ上デ寄附金ノ有無ト云フコトヲ第二段トシテ考ヘル場合ガ多イノデアルトノ答デゴザイマシタ、生徒ヲ募集シテ授業ヲ始メルノハ何年カラカトノ間ニ對シマシテ、醫學部ニ於テハ、現在ノ醫科大學ノ學生ガ十四年度ヨリ直チニ綜合大學ノ學生ニナルノデアアルガ、理工學部ノ學生ハ、十五年度ヨリ募集シタイト考ヘテ居ルトノ答デゴザイマシタ、其ノ他醫科ノ志望學生ガ少イノデ、文科カラモ希望者ヲ採用スルコトニ關シ、又此ノ新設ノ大學教育ニ對シテ人格ノ陶冶、精神ノ訓練等ニ大イニ力ヲ致サレタイトノ希望、及ビ之ニ對スル質問ガゴザイマシタケレドモ、詳シイコトハ速記録ニ譲リ、省略ヲ致シタイト存ジマス、質疑ガ終リマシテ討論ニ入りマシタ、一委員

ヨリ、此ノ名古屋帝國大學ハ立派ニ出來上ル以上、之ニ付テ特色ノアル大學ニシテ戴キタイ、現今ハ醫科ヲ本體トシテ、理工科ヲ段々ト充實シテ行クトノ御話デアアルガ、將來ハ農科ヲモ之ニ加ヘ、中京綜合大學トシテ特色ノアルヤウニ致サレタイトノ希望意見ノ開陳ガアリマシタ、討論終結シ、直チニ採決ヲ致シマシタ結果、全會一致原案ヲ可決致シマシタ

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二

讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第三讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通りデ御異議ハゴザイマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十一、森林法中改正法律案、日程第十二、林業種苗法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、是等ノ兩案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス、委員長川村伯爵

森林法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十一日

委員長 伯爵川村鐵太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

林業種苗法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年三月十一日

委員長 伯爵川村鐵太郎

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔伯爵川村鐵太郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵川村鐵太郎君 只今日程ニ上リマシタル森林法中改正法律案及林業種苗法案ノ二案ヲ束ネテ特別委員會ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、先ヅ最初ニ、簡單ニ此ノ兩案ノ内容ヲ申上ゲテ見マス、森林法ハ制定以來殆ド三十年モ経テマシテ、中ニハ時勢ノ進退ニ副ハナイモノガアルニ至リマシタノミナラズ、今次事變勃發ニ伴ヒマシテ木材ノ需要急激ニ増加シ、爲ニ内地民有林ハ到ル處濫伐ノ傾向著シク、其ノ結果動モスレバ木材供給ノ確保ヲ害シ、又ハ治山ノ基礎ヲ危クスルニ至リマシタル爲ニ、

森林法ニ改正ヲ加ヘ過伐、早伐ニ對スル抑制ヲ圖リ、木材資源ノ強化、培養ニ資スルト共ニ、森林施業ノ合理化ニ依リマシテ、戰時經濟ノ態勢ニ順應セムコトヲ期シテ本案ヲ提出セラレタモノ、デアリマス、尙林業種苗法案ハ森林造成ノ基本タルベキ極メテ重要ナ法案デアリマシテ、林業用種苗ノ生産配付ヲ適正ナラシムル同時ニ、母樹ノ指定、採取方法ノ改善、種苗ノ配付區域ノ設定、其ノ他種苗業者ノ取締等ニ關スル制度ヲ設ケテ、林業經營ノ安定ヲ圖ル爲ニ制定セラレタ法律デアリマス、委員會ハ去スル三月二日正副委員長ノ選舉ヲ終リマシテ、各委員カラ幾多ノ參考資料ヲ政府ニ要求セラレマシテ、引續キ六日、八日、十日ト三日ヲ質疑ニ費シマシテ、三月十日ハ討論ニ入りマシテ、色々本案賛成ノ意見ノ開陳モアリマシテ、採決ニ入りマシタ處、何等異論モナク、兩案共異議ナク原案通り可決決定致シマシタ次第デアリマス、是ヨリ質疑内容ヲ一通リ、其ノ主ナルモノノ要點ヲ擧ゲテ申上ゲテ見タイト思ヒマス、森林行政ノ統一スルノ要ハナキカト云フ質問ニ對シマシテ、農林大臣ヨリ内地、北海道、樺太等ノ森林ノ監督官廳ハソレゾ、異ツテ居ルガ、其ノ間緊密ナル連絡ヲ執リ、一定ノ方針ヲ以テ行政上遺憾ナキヲ期シツ、アリト答辯ガアリマシタ、次ニ木材殊ニ「パルプ」需給ノ關係如何ト云フ質問ニ對シマシテ、「パルプ」資材ニ關シテハ昭和十七年ニ於テ滿洲國ヨリ一部輸入スルコトニ依リ、内地ニ於ケル製紙並ニ人絹用「パルプ」ヲ大體自給自足スルコトガ出來ル、其ノ計畫ヲ樹立シ、目下著々之ガ資材ノ増産ヲ實行中デア

ルト云フコトデアリマシタ、ソレカラ其ノ他ノ木材ノ關係トシマシテハ、大體其ノ需要ハ増加スルモノト認メラレラガ、間伐ノ厲行及林道ノ普及ニ伴ヒマシテ、未利用林ノ開發ニ依リ生産増加ヲ以テ、之ヲ充足シ得ルト云フ答辯ガアリマシタ、木材需給ノ情勢ニ鑑ミ、大造林國策ヲ樹立實行スルノ要ナキヤト云フ質問ニ對シマシテ、造林ノ振興ハ法制、經濟、精神ノ方面ヨリ行ハナケレバナラス、即チ一ハ今回ノ森林法ノ改正ニ依リ、二ハ造林助成ノ擴充ニ依リ、第三ハ造林思想ノ徹底ノ普及ニ依リ、大イニ造林ノ振興ヲ圖リタイト思フ、斯ウ云フ御答辯デアリマシタ、森林組合ノ人的配置ノ完成ニ關スル質問ニ對シマシテ、一年三百組合ヲ結成セシメ、十箇年計畫ヲ以テ三千組合ヲ成立セシムル豫定デアル、其ノ間ニ甲種農林學校程度以上ノ卒業生、其ノ他林業地ノ森林管理者中ヨリ適任者ニシテ相當實務ニ經驗アル者ヲ選ビ、毎年相當ノ員數ヲ森林組合ニ配置スル豫定デアルト云フ御答辯デアリマシタ、森林火災保險ノ普及ト森林金融關係ノ相對性ニ關スル質問ニ對シマシテ、森林組合ノ強化ヲ圖リ、施業、管理ノ不安ヲ一掃スルト共ニ、火災保險ノ危險率ガ十分ニ確定シ次第、森林國營火災保險ヲ考ヘテ居ル次第デアル、殊ニ二十年生以上ノ森林ニ對シテハ其ノ意圖デアルト云フ御話デアリマシタ、森林ニ對スル相續稅及地方稅輕減又ハ撤廢問題ニ付キマシテハ、ソレゾ「考究ヲ重ネ、又後者ノ如キハ改正ノ餘地ガアルト云フ御答辯ガアリマシタ、林道網ノ擴充要望ニ付キマシテハ、次年度以降ニ於テ一層擴充ニ付十分ナル努力ヲスルト云フ御答辯デアリマシタ、尙此ノ外ニ

森林特別會計設置ノ問題、森林金融機關ノ設置、森林擔保問題、林業者ニ對スル經濟的苦痛ノ輕減、施業案ノ簡易化ト其ノ彈力性、輸出林産工業品ニ對スル原料供給對策ニ付キマシテハ、各委員カラ政府委員ニ質ス等ソレゾ「質疑ガアリマシタ、次ニ林業種苗法案ノ質疑應答ヲ申上ゲマス、内地及北海道ヲ一貫シタル種苗ノ取締ヲ圖ル要ナキカト云フ御質問ニ對シテ、種苗法ハ北海道ニモ同時ニ施行セラレルモノニシテ、種苗ノ取締ニ付キマシテハ十分ノ連繫ヲ圖リ遺憾ナキコトヲ期スルト云フ御答辯ガアリマシタ、其ノ他種苗業者ノ連絡協調ニ依リ、種苗ノ適切ナル配給ヲ圖ル方法ニ付テハ十分考慮スルト云フコトデアリマシタ、其ノ他兩案ヲ通ジテ詳細ナルコトハ速記録ニ依リ御了承アラムコトヲ望ミマス、而シテ三月十一日討論ニ入り各委員ヨリ熱心ナル贊成意見ノ陳述ガアリマシタ後、兩案ヲ束ネテ採決ヲ行ヒマシタ處、兩案トモ全會一致ヲ以テ原案通り可決決定致シマシタ、私ノ委員會ノ報告ハ之ヲ以テ終リマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナケレバ、兩案ノ採決ヲ致シマス、兩案ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 贊成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 兩案ノ第二讀會
ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題
ニ供シマス、兩案全部、委員長ノ報告通り
デ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ兩案ノ第三讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 兩案ノ第三讀會
ヲ開キマス、兩案全部、第二讀會ノ決議通
リデ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十三、短
期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正
法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會
ノ續、委員長報告、委員長後藤伯爵

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法
中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和十四年三月九日

委員長 伯爵後藤 一藏
貴族院議長伯爵松平賴壽殿

〔伯爵後藤一藏君演壇ニ登ル〕

○伯爵後藤一藏君 只今議題ト相成リマシ
タ短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法中
改正法律案ノ委員會ニ於ケル經過竝ニ結果
ヲ御報告申上ゲマス、本改正法律案ノ提出
理由ハ、過日本會議ニ於キマシテ、又改正
内容ニ付キマシテハ委員會ニ於キマシテ、
何レモ文部大臣ヨリ御説明ガアツクノデゴ
ザイマス、其ノ内容ハ速記録ニ依ッテ御承
知ヲ願ヒタイト存ジマス、之ヲ省略
致シタイト存ジマス、今質疑應答ノ二三ヲ
申上ゲマス、ト、小學校教員ノ俸給ヲ全額國
庫ニ於テ負擔スルト云フコトハ、餘程前カ
ラノ問題デ現在ニ於テモ、教育審議會アタ
リデ御審議ニナツテ居ルト思フガ、當局ノ御
考ハ如何トノ間ニ對シ、小學校教員ノ身分
ヲ相當ニ保障スル爲ニハ、全額ヲ國庫負擔
トスルガ最モ宜イト云フコトハ定説デア
ル、併シ國家財政其ノ他ノ均衡上、直チ
ニ此ノヤウナ方面ニ向ツテ實施ハ困難デア
ルトノ答デゴザイマシタ、又小學校教員ガ
二箇年ノ長期ニ互リ兵役ニ服スルコトト
ナルガ、之ニ對シ教員ノ補充ハ如何ニスル
カトノ質問ニ對シ、政府ハ、十四、十五ノ
兩年度ニ於テ、各府縣ニ於テ師範學校第二
部ノ生徒ヲ増募セシムルノ計畫ヲ立テシメ
テ居ルノデ、教員ノ不足ヲ補充スル方針ヲ
執ツテ居ル、併シ此ノ増募ノ爲ニ學級ヲ増加
シタ府縣ニ對シテハ、其ノ經費トシテ國庫
ヨリ補助スルコトト致シ、十四年度通常豫
算ニ此ノ爲ノ臨時補助費ヲ計上致シテ居ル

トノ答辯ガゴザイマシタ、次ハ本案ニ依レ
バ、俸給ノ國庫負擔ヲ師範學校卒業生ノミ
ニ限定サレテ居ルガ、廣ク帝國大學其ノ他
ノ學校卒業生ニシテ、小學校教育ニ從事スル
者ニモ此ノ制度ヲ及シテハ如何トノ質問ニ
對シテ、政府ハ其ノ沿革及師範學校教育重
要性特殊性及師範學校ニ人材ヲ招致スル必
要カラ、斯カル取扱ヲ爲スノデアルトノ答
ゴザイマシタ、其ノ他質疑應答ガゴザイ
マシタケレドモ、是ハ速記録ニ依ッテ御承知
ヲ願ヒタイト思ヒマス、斯クシテ審議ノ上
討論ニ入りマシタガ、委員ヨリ別段意見ノ
開陳モナク、本案ハ全會一致、原案通り可
決致シ次第デゴザイマス、右御報告申上
ゲマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 別ニ御發言モナ
ケレバ本案ノ採決ヲ致シマス、本案ノ第二
讀會ヲ開クコトニ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第二讀會
ヲ開キマス、御異議ナケレバ全部ヲ問題ニ
供シマス、本案全部、委員長ノ報告通りデ
御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

○子爵植村家治君 賛成

○議長(伯爵松平賴壽君) 西大路子爵ノ動
議ニ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 本案ノ第三讀會
ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決議通
リデ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十四、昭
和十二年度歳入歳出總決算、昭和十二年度
各特別會計歳入歳出決算報告、日程第十五、
昭和十二年度國有財産増減總計算書報告、
會議、委員長報告、是等ノ二案ヲ一括シテ議
題ト爲スコトニ御異議ハゴザイマセスカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認
メマス、委員長周布男爵

昭和十二年度歳入歳出總決算昭和十二
年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度
検査未確定金額ノ検査確定シタルモノヲ
審査シ

第一

昭和十二年度歳入歳出總決算歳入經
常部第六款雜收入第十二項雜入中農
林省ニ於テ歳入ニ編入スヘキ件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算鐵道省所管帝國鐵道資本勘定歲出第一款鐵道建設改良及自動車線設備費第一項鐵道建設費中鐵道省ノ支出ニ係ル件、第二項鐵道改良費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上用品勘定歲出第一款用品及工作費第一項用品及工作費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上收益勘定歲出第一款作業費第一項事業費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度歲入歲出總決算歲出臨時部大藏省所管第一款營繕費第六項專賣局淀橋工場移轉新營繕中營繕管財局ノ支出ニ係ル件、第七項專賣局所屬工場新營繕中營繕管財局ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置適切ナラザルモノト認ム
第二

昭和十二年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件、西稅務署、幸橋外三稅務署、神田橋稅務署、橫濱稅務署、日本橋稅務署、一宮稅務署、堺稅務署、神田橋稅務署、浦和外一稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ九件、堺稅務署ノ徵收過ニ係ル件、第二項地租中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件、第三項營業收益稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件、第四項資本利子稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件、第五項法人資本稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件、第六項相續稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件、下京稅務署ノ徵收不

足ニ係ル件、第六款雜收入第一項免許及手数料中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件、第十二項雜收入中高知縣ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件

昭和十二年度歲入歲出總決算歲入臨時部第十款臨時利得稅第一項臨時利得稅中輪島稅務署ノ收入ニ至ラザリシ件

昭和十二年度歲入歲出總決算歲出經常部司法省所管第三款刑務費第三項收容費中大阪刑務所ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算海軍省所管海軍工廠資金歲出第一款材料物品費第一項材料物品費中佐世保海軍工廠ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算文部省所管帝國大學歲出臨時部第六款大阪帝國大學第二項工學部機械工學實驗室其他震災復舊及新營繕中大阪帝國大學ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算農林省所管米穀需給調節歲出第一款米穀需給調節費第三項事業費中農林省米穀局ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算逓信省所管逓信事業用品勘定歲出第一款逓信事業用品及工作費第二項用品及工作費中逓信省經理局ノ支出ニ係ル件

同上業務勘定歲出第一款逓信業務費第二項業務費中東京都市逓信局ノ支出ニ係ル件、逓信省經理局ノ支出ニ係ル件、第三項諸拂戻及補填金中貯金局ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算鐵道省所管帝國鐵道資本勘定歲出第一款鐵道建設改良及自動車線設備費第一項鐵道建設費中鐵道省ノ支出ニ係ル件、第二項鐵道改良費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上用品勘定歲出第一款用品及工作費第一項用品及工作費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

同上收益勘定歲入第一款作業收入第一項運輸收入中鐵道省ニ於テ徵收ニ至ラザリシ件、第二項雜收入中鐵道省ノ徵收ニ係ル件、歲出第一款作業費第一項事業費中鐵道省ノ支出ニ係ルモノ二件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管朝鮮總督府歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中惠山鎮稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、歲入臨時部第九款北支事件特別稅第一項所得稅中惠山鎮稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、歲出經常部第二十款營林署第二項事業費中城津營林署ノ支出ニ係ル件、第二十八款諸支出金第一項諸支出金中朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件、歲出臨時部第八款鐵道建設及改良費第一項建設費中朝鮮總督府鐵道局ノ支出ニ係ル件、第十三款土地改良事業費第二項助成費中朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管臺灣總督府歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中高雄州、臺北州ノ徵收不足ニ係ルモノ二件、第三項營業稅中臺北州ノ徵收不足ニ係ル件、歲入臨時部第七款臨時利得

稅第一項臨時利得稅中高雄州ノ徵收不足ニ係ル件、第十款北支事件特別稅第一項所得特別稅中臺北州ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算厚生省所管健康保險歲入第一款健康保險收入第一項保險料收入中兵庫縣ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件、第三項雜收入中兵庫縣ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件

昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算厚生省所管郵便年金歲出第一款郵便年金費第四項諸支出金中簡易保險局ノ支出ニ係ル件

昭和八年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中四谷稅務署、西宮稅務署、上京稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ三件

昭和九年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中藤澤稅務署、四谷外三稅務署、西宮稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ三件、板橋稅務署、幸橋稅務署ノ徵收過ニ係ルモノ二件

昭和十年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款租稅第一項所得稅中幸橋外一稅務署、西稅務署、名古屋北稅務署、淀川稅務署、上京稅務署、南稅務署、松戶稅務署、名古屋南稅務署、四谷稅務署、淀川稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ十件、龜戶稅務署、小松稅務署、米子稅務署、淀川稅務署、伊那稅務署ノ徵收過ニ係ルモノ五件、第三項營業收益稅中淀川稅務署、松戶稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ二件、龜戶稅務署、小松稅務署、米子稅務署、

淀川稅務署、伊那稅務署ノ徵收過ニ係ルモノ五件

昭和十年度歲入歲出總決算歲入臨時部第十款臨時利得稅第一項臨時利得稅中淀川稅務署ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管樺太廳歲入經常部第一款稅務第三項營業收益稅中樺太廳豐榮支廳ノ徵收過ニ係ル件

昭和十一年度歲入歲出總決算歲入經常部第一款稅務第一項所得稅中京橋稅務署ノ收入ニ至ラサリシ件、西稅務署、品川外三稅務署、淀橋稅務署、一宮稅務署、板橋稅務署、南稅務署、藤澤稅務署、西稅務署、小樽外一稅務署、淀橋稅務署、伏見稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ十一件、日本橋稅務署ノ徵收過ニ係ル件、第三項營業收益稅中伏見稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、日本橋稅務署ノ徵收過ニ係ル件

昭和十一年度歲入歲出總決算歲入臨時部第十款臨時利得稅第一項臨時利得稅中伏見稅務署ノ徵收不足ニ係ル件、日本橋稅務署ノ徵收過ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管健康保險歲出第一款健康保險事業費第三項保險給付費中警視廳江東健康保險出張所ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管第五十一款災害費第六項秋田縣災害土木費補助中秋田縣ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管健康保險歲出第一款健康保險事業費第三項保險給付費中警視廳江東健康保險出張所ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管健康保險歲出第一款健康保險事業費第三項保險給付費中警視廳江東健康保險出張所ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管健康保險歲出第一款健康保險事業費第三項保險給付費中警視廳江東健康保險出張所ノ支出ニ係ル件

算逓信省所管逓信事業用品勘定歲出第一款逓信事業用品及工作費第二項用品及工作費中逓信省經理局ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算鐵道省所管帝國鐵道收益勘定歲出第一款作業費第一項事業費中鐵道省ノ支出ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管朝鮮總督府歲入經常部第一款稅務第二項所得稅中元山稅務署ニ於テ歲入ニ編入スヘキ件、元山稅務署、京城稅務署ノ徵收不足ニ係ルモノ二件、歲入臨時部第三款臨時利得稅第一項臨時利得稅中元山稅務署ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管樺太廳歲入經常部第一款稅務第三項營業收益稅中樺太廳豐榮支廳ノ徵收不足ニ係ル件

昭和十一年度各特別會計歲入歲出決算拓務省所管南洋廳歲入經常部第二款官業及官有財產收入第四項燐礦拂下代中南洋廳ノ徵收ニ係ル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ム

第三 其ノ他異議ナシ

右ノ通議決セリ依テ及報告候也

昭和十四年二月二十八日

委員長 男爵周布 兼道 貴族院議長伯爵松平賴壽殿

第一 旭川營林區署ニ於テ收入未済ニ係ル國有林木ノ管理其ノ宜シキヲ得サル件

臺灣總督府營林所ノ徵收ニ係ル隨意契約ヲ以テ木材ノ賣拂ヒヲ爲シタル件

臺灣總督府ノ徵收ニ係ル臺中州豐原郡內埔庄所在官有地ノ貸付ニ係ル件

樺太廳大泊林務署ニ於テ歲入ニ編入スヘキ皆岸國有林內立木ノ不法伐採ニ係ル件

官有物中名古屋鐵道局ニ於テ清水港驛構內岸壁寄省用炭置場ノ隣接地ヲ營業炭置場トシテ無料使用セシメタル件

(既往年度) 朝鮮軍經理部ノ徵收ニ係ル京城府本町二丁目所在國有土地ノ賣拂ヒニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サル件

北海道廳ノ徵收ニ係ル北海道水產試驗場所屬汽船ノ賣拂ヒニ當リ措置其ノ宜シキヲ得サル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ム

第二 其ノ他異議ナシ

右ノ通議決セリ依テ及報告候也

各特別會計歲入歲出決算並ニ昭和十二年度國有財產增減總計算書ニ付キマシテ、委員會ニ於ケル議事ノ經過並ニ結果ニ付テ御報告申上ゲマス、本會議ニ於キマシテ政府ヨリ別段ノ御説明モゴザイマセヌシタノデ、此ノ際數字ニ付キマシテ簡單ニ申上ゲタイト存ジマス、昭和十二年度歲入歲出總決算ハ、歲入ノ收入濟額經常部ニ於キマシテ十九億四千五百九十九萬八千三百五十一圓七十三錢八厘、臨時部ニ於キマシテ九億六千八百四十七萬二千四百四十四圓五厘、合計二十九億四千四百四十七萬四千九十一圓八十八錢三厘、之ニ對シマシテ歲出ノ支出濟額ハ經常部ニ於キマシテ十四億九百二十五萬五百九十二圓四十二錢五厘、臨時部ニ於キマシテ十二億九千九百九十九萬六千八百九十圓九十一錢一厘、合計二十七億九百九十五萬七千四百八十三圓三十三錢六厘トナリマシテ、歲入ノ收入濟額ト歲出ノ支出濟額トノ差引額二億五百三十一萬三千八百五十四錢七厘ノ剩餘ヲ生ジタノデアリマスルガ、是ハ會計法第二十六條ニ依リマシテ、昭和十三年度ノ歲入ニ繰入レタノデアリマス、其ノ外特別會計ハ本決算ニ於キマシテ、其ノ數三十八會計アリマスガ、其ノ金額ハ頗ル煩雜ニ互リマスルノデ、茲ニ省略致シマス、次ニ國有財產增減總計算書ニ付テ申上ゲマス、昭和十二年度ニ於テ増加致シマシタ國有財產ハ、一般會計ニ於キマシテ四億一千四百七十七萬四千四百三十三圓九十七錢七厘、特別會計ニ於キマシテ五億二千三百六十三萬三千三百六十六圓四十九錢九厘、合計九億三千五百三十三萬七千七百九十七圓四十七錢六厘デアリマス、減少致シマシタ國有財產ハ、一般會計ニ於キマシテ一億六千八百

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

○男爵周布兼道君 只今上程サレマシタ昭和十二年度歲入歲出總決算、昭和十二年度各特別會計歲入歲出決算報告外一件會議二九九

七十二萬一千七百七十一圓八十五錢四厘、特別會計ニ於キマシテ二億五千九百四十二萬三千三百三十三圓八十錢八厘、合計四億二千八百四十四萬四千二百五十六圓六十六錢二厘トナリマシテ、結局差引増加額五億六千九百九十九萬三千五百九十一圓八十一錢四厘トナルノデアリマス、本委員會ハ第一回ヲ去ル一月二十一日ニ開會致シマシテ、分科審査ノ權衡ヲ計リマス爲、分科擔當所管省ノ變更ヲ致シマシテ、二月七日ニ第二回ノ委員會ヲ開キマシテ、決算、國有財産ニ對シ大藏大臣ヨリ大體ニ互ル説明ガアリ、之ニ對シ委員ハ質疑ヲ盡サレタル後、先例ニ依リマシテ、決算ノ審査方針、分科ノ審査期限、並ニ審査豫定日等ヲ決議致シ、之ガ審査ヲ各分科ニ、又國有財産ニ關シテハ小委員會ニ、各付託致シタルデアリマス、分科會、小委員會ニ於テハ、各所管ノ部ニ付、數回ノ會議ヲ開カレマシテ、慎重ナル審査ヲ盡サレ、而シテ二月二十三日、各分科會及小委員會ハ決議ヲ致サレマシテ、二月二十八日ニ第三回ノ委員會ヲ開キマシテ、各分科主査並ニ小委員會ノ委員長ヨリ詳細ナル報告ガアリマシタ、各分科ヲ通ジ議決セラレマシタルモノハ、政府ノ措置適切ナラザルモノト認ムルモノ七件、政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ムルモノ百八件、其ノ他ハ全部異議ナシト云フコトデアリマシタ、又小委員會ニ於テハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スベキモノト認ムルモノ七件、其ノ他ハ全部異議ナシト決定セラレタルデアリマス、各分科主査並ニ小委員會委員長ノ報告アリマシタル後、尙政府ニ對シ質疑ヲ重ネマシテ十分ナル審査ヲ盡シ、採決致シマシタル結果、全會一致分科並ニ小委員會

議決報告通り可決致シタルデアリマス、次ニ委員會並ニ分科會、小委員會ヲ通ジ問題トナリマシタル中ヨリ、二三其ノ概要ヲ申上ゲマスルト、第一ニ米穀需給調節特別會計ニ巨額ナル損失ヲ有シテ居ルガ、之ガ填補策トシテ米穀證券ノ發行ニ限度ヲ設ケテハ如何ト云フニ對シ、當局ハ本會計ノ損失ノ整理ヲ如何ニスルカト云フ問題デアリガ、是ハ政府トシテハ損失ノ爲ノ證券ノ借換發行ハ出來ルダケ避ケタイ、且現在ノ本會計ノ損失ヲ今直グ整理スルト云フコトハ考ヘテ居ラス、又市場ニ於ケル證券發行ノ限度ヲ如何ナル程度ニスルカト云フ問題ハ、本會計ノ機能ヲ發揮スル爲ニ必要ナル證券ノ發行限度、證券ノ市場ニ於ケル消化及ビ是等ノ公債ノ消化ニ及ス關係等ヲ考慮シテ決メネバナラスコト考ヘル、只今トシテハ出來ルダケ本會計ノ損失ハ少クスル、損失ヲ填補スル爲ノ證券ノ發行ハ、之ヲ出來ル限リ抑ヘテ行キタイト考ヘテ居ルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ官吏ノ賞與問題ニ關シ、賞與ノ支出ハ各均衡ヲ計ル爲、之ヲ豫算ニ計上シテハ如何、又賞與規定ヲ勅令デ定メテハ如何トノ質疑ニ對シ、政府當局ヨリ、之ヲ豫算ニ計上スルニ付テハ種々研究スベキ事項ガアリ、又各省間ノ權衡ノ問題モアリ、今直チニ來年度ヨリ豫算ニ組入レルコトハ困難デアアル、又賞與規定ヲ勅令デ定メタルコトニ付テモ、十分研究スルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ鐵道共濟組合給與金ノ問題デアリマスガ、是ハ鐵道共濟組合ガ國策ニ順應シテ、所持ノ公債ヲ低金利ノ國債ニ替ヘマシタ爲ニ、其ノ資本運用上利廻ガ減少シ、責任準備金ノ不足ヲ生ズル事態ニ立至リマシタルノデ、其

ノ不足填補ノ方法トシテ、給與金増額ノ案ヲ立テマシテ、十二年度豫算ニ於テ百二萬圓ノ給與金増額ノ豫算ヲ作リマシタ、其ノ豫算ハ兩院ノ審查ヲ經マシテ決定致シマシタガ、其ノ給與金増額ノ爲ノ勅令ガ發布ニ至リマセヌノデ、已ムヲ得ズ増額ヲ思ヒ切リ、贖出金ノ名目ヲ以テ六十一萬圓餘ヲ贖出致シマシテ、共濟組合ノ責任準備金ノ填補ニ用ヒタルデアリマス、是ハ檢査報告ニ於テ批難サレタル問題デアリマシテ、事件ハ一時限リノモノデナク、政府ノ低金利政策ガ續ク限リ、毎年斯カルコトヲ繰リ返スコトハ甚ダ妥當ヲ缺クヲ以テ、是ガ取扱ヲ將來如何スルカト云フニ對シ、鐵道大臣ヨリ本件ノ政府補給金ニ關シテハ、其ノ性質ニ鑑ミ大藏省トモ協議シ、直チニ組合ノ經理運營ニ關シ、改善方研究ヲ加フルト共ニ、補給金支出ニ關スル勅令ニ改正ヲ加ヘル等速カニ善處致シタイト思フトノ答辯ガアリマシタ、次ニ國有財産ニ關シマシテ、北海道國有未開地處分法ノ問題、鐵道省所管國有財産ノ減價償却ノ問題、作業會計等ニ於ケル國有財産價格遞減ノ基準トナルベキ耐用年限統一ノ問題、國有財産整理資金ノ問題、國有財産處分ノ評價問題、其ノ他ニ付種々質疑ガアリ、政府當局ヨリソレレノ詳細ナル答辯ガアリマシタ、以上ノ外種々ナル質疑應答ガアリマシタガ、詳細ハ速記録ニ讓ルコトニ致シマシテ、茲ニ省略致シタイト存ジマス、右ヲ以テ御報告ヲ終リト致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 日程第十四、日程第十五、二件トモ決算委員長ノ報告通り御異議ゴザイマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナシト認メマス
○議長(伯爵松平賴壽君) 次會ノ議事日程ハ決定次第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後三時四十一分散會

貴族院議事速記第二十一號正誤	頁	段	行	誤	正
二五三	三	四一五	君	大西虎之助	大西虎之介
貴族院議事速記第二十一號中二六四頁一段二六行目ノ左ノ一行ヲ削除ス					
○議長(伯爵松平賴壽君)				戸澤子爵	

內閣印刷局